臺灣日日新報

急行直通豫想問題記念

圖書館主任會議

生徒募集

生徒募集

生徒募集

日本脱退と臺灣住民の覺悟

本日の軍官民大會に望む！

一

我が國の誇しい運命を荷負つて立つものとして、三十八年期の非常時局を早く切り拓かれ、聖戰を完遂されてゆかなければならないのであつて、今回我が軍縮會議の代表が脱退に依つて、從來の軍縮條約の廢棄通告をなしたことは、實に我が國の將來に重大なる影響を與へるものであつて、我が國民は擧國一致、この重大時局に對處して行かなければならない。

二

元來、日本の脱退に依つて軍縮會議は其の本來の使命を全うされず、帝國の最も重要なる主張たる不侵略不侵略原則が拒否されることに依つて、世界海軍の現狀維持は事實に從つて破られた結果にならざるを得ない。なぜならば凡そ軍縮の根本精神は、軍覺することに不侵略、不侵略以外に出ないからだ、この精神を放棄して何の軍縮があらうぞ、從つて我國從來からすれば、軍縮會議脱退の責任は、日本案を採用なく拒否して軍縮上の指導精神に背を向けたる英米側の上に帰する有ることを認められなければならない、偏狹愛國心の隠れたる秘密は、一は新興日本の世界的力を如何にして押へ付けんかにあり、他は英米側等の先進大國が、國家に拘へ切れ切れの國際關係や自己の勞力過剰等の現狀維持を良しとする日本の勞力がこれ以上更に伸びる事を唯々恐れてゐるに在る。此點に於ては、我が國民は決して英米人に劣るものでない。

三

臺灣の全住民は、國防上の見地からは同一運命の共同體であつて自分一人、之に依て棄る運命から免がれることは出來ない。この際全國に他の比喩を以て言ふと、臺灣五百萬の住民は、一家の大きな軍艦に乘り組んでゐるが如きものである。然しこれが他から攻撃などされる場合は、此軍艦の組員は全員一致協力の下に、自己防衛のため最大限の力を發揮しなくてはならない。然るに此協力と此共同防衛に對する觀念を缺いたり、且つ其の訓練に不熱心であつたりすれば、一旦事ある時、これ程危險なものはない。

四

この際は、住吉日本本土から脱退したのだから當然、對英協調の諸問題に對しおだやかな態度に出るべきだ、獨り國防問題のみならず、一般の外交問題に對しても、從來の如く英米追從の態度を改めて、獨自の立場に於て、國家の安全を期するべくまない。

五

兎に角、日本の脱退に依て軍縮會議は其の本來の使命を全うされず、帝國の最も重要なる主張たる不侵略不侵略原則が拒否されることに依て、世界海軍の現狀維持は事實に從つて破られた結果にならざるを得ない。なぜならば凡そ軍縮の根本精神は、軍覺することに不侵略、不侵略以外に出ないからだ、この精神を放棄して何の軍縮があらうぞ、從て此脱退から生ずる國防問題に對しおだやかな態度に出るべきだ、獨り國防問題のみならず、一般の外交問題に對しても、從來の如く英米追從の態度を改めて、獨自の立場に於て、國家の安全を期するべくまない。

建艦競爭起るとも 東洋斷じて安し

自主的軍備を整ふ 帝國海軍の方針

決裂の後の 非常時今や頂點 結束！克服せん

馬公要港部・木幡參謀長の談

【東京十六日發】ロンドン軍縮會議の決裂に依て馬公要港部木幡參謀長は談話の形式を以て十六日午後五時新聞記者團に對し左の如く發表した

帝國が會議脱退の通告を發するに至つたことは、誠に遺憾千萬である、帝國の正義に立脚せる主張と平和を念願せる熱誠は何日かは列國の認むるところとなるであらう、吾人は昭和七年松岡全權が全國民の力強き後援の下に國際聯盟を脱退した當時を思ひ出し、あの時以上の重圧なる決心を以て今後に處するの要があると思ふ、帝國脱退以來我が國民は日を逐うて進歩し我が國策的地位もはつきりと全世界に認識されるやうになつた、然し同時に國際情勢は年と共に深刻化し今や非常時も愈々頂點に達したと云へよう、大れ大げ吾人の覺悟の置き方大なるを痛感する次第である、今後帝國一致結束して此の非常時を克服して國策百年の大計を樹立せねばならぬ、國民の充分なる理解と熱誠なる後援あると以上我が海軍としては國權ロンドン會議脱退以來我が國民は日を逐うて進歩し我が國策的地位もはつきりと全世界に認識されるやうになつた、然し同時に國際情勢は年と共に深刻化し今や非常時も愈々頂點に達したと云へよう、大れ大げ吾人の覺悟の置き方大なるを痛感する次第である、今後帝國一致結束して此の非常時を克服して國策百年の大計を樹立せねばならぬ、國民の充分なる理解と熱誠なる後援あると以上我が海軍としては國權

我全權團急ぎ歸朝

本國へ申請中 二十二日出發か

【ロンドン十六日同盟特派員發】永野、永野全權以下帝國全權團では會議の經過を急ぎ本國政府に報告する必要ある事と、報告書作成の爲には船上が便宜な關係上米國經由歸國を希望し直ちに本國政府に之が許可を申請することに決した右許可あり次第二十二日午後四時ロンドン出發フランス汽船イル・ドフランス號でアメリカに赴く筈であるが、本國政府に於て會議決裂後も米國經由を少デリケートとの意見ならマルセイユ三十日

今夕五時（臺灣時刻） 長谷川次官放送

決裂後の海軍の方針

【東京十六日發】海軍省發表 會議に當り全權團の採つた態度は既に屢々發表せる通りであるが、帝國の眞意は更に之を明確にするの必要を認め、長谷川次官は十六日午後五時（臺灣時刻）全國民に對し放送を行ふ

岡田首相が參內 正式脱退を奏上

【東京十六日發】海軍軍縮會議脱退に關し岡田首相は十六日午後一時宮中に參內天皇陛下に拜謁御付託の軍縮會議脱退に至る經過並に今後の方針に就き委曲奏上し御下問に奉答して御聖慮を安んじ奉つた

各國の反對意見に 我代表沈默を守る

緊張した委員會の內容

【ロンドン十五日電通特派員發】十五日午後三時開會するや先づ議長モンセル英海相から日本の要求で議題を變更し日本案を討議したいが各國とも異議なきやと質ねる各代表は

英譯文 を參照されたき旨答へ

この間約二十五分、これに次いで休憩が終るまでに約一時間を要した、それからモンセル海相の指名で先づイタリー代表に依り各國代表の意見を質すことゝなつた

百六十五萬圓を 米穀自治管理資金

臺灣銀行を經て貸付

佛の方針

新事態に對應する樣 各員奮勵努力せよ〝

海相より管下へ訓示を通達

文武官千四百名に敍勳

【東京十六日發】敍勳に關しては十六日發表の通り正四位勳一等白根竹介氏外千四百二十二名に對し定期敍勳の御沙汰あり勳一等に敍せられた山田海軍次官は

督府關係辭令

【東京十六日發】

人事

定期敍勳

臺灣關

英海軍當局の 日本案反對理由

原則としては 日本案に贊成 但し協定達成は困難

伊は消極的の反對

外相の演說要旨

再開劈頭行はる

小兒科 信生堂醫院

毛斯 荷揃大賣出し 安上り 大巾仙友錦紗

十八日より 北臺 國松井吳服店

ベンベル糸と絹糸との統一品 四ツ身にもなり一ツ身にもなる 奇麗な品 錦紗友仙 大巾 二尺 二十八錢 縦横正絹津ばみ友仙 錦紗 大巾 一尺 三十八錢 階上階下陳列

大谷金庫 昭和十一年一月休暇 この金庫に賴る 株式會社 大谷金庫店 代理店 長谷川商行 臺北市本町二丁目 電話二四六五番

一月 1 2 3 4 5 6 7
二月 2 9 11 16 16 21 23
三月 1 8 15 21 22 29 29
四月 3 5 12 19 26 29 31
五月 3 10 17 24 31
六月 7 14 17 21 28
七月 5 12 19 26
八月 2 9 16 23 30
九月 6 13 20 23 27
十月 4 11 17 18 25 27
十一月 1 8 15 22 23 29
十二月 6 13 20 25 27

大谷日曜休 太字は大谷金庫の休日

臺北市本町二丁目 電話二四六五番 小兒科 信生堂醫院 院長 森田豊子

臺灣銀行 臺北市本町二丁目 電話二四六五番 代理店 丸組 臺北市本町二丁目 電話二四六五番

臺灣銀行 臺北市本町二丁目 電話二四六五番 代理店 丸組 臺北市本町二丁目 電話二四六五番

臺灣銀行 臺北市本町二丁目 電話二四六五番 代理店 丸組 臺北市本町二丁目 電話二四六五番

臺灣銀行 臺北市本町二丁目 電話二四六五番 代理店 丸組 臺北市本町二丁目 電話二四六五番

臺灣銀行 臺北市本町二丁目 電話二四六五番 代理店 丸組 臺北市本町二丁目 電話二四六五番

滿洲、北海道、臺灣が 内地農業移民募集

三ツ巴で移民募集 臺灣行が一番喜ばる

殖産局では本年度の沙山村移民を招致するため關係縣の協力を得て九州地方に於て十月二十日から一月八日までに亘り中州の山口縣下を中心として四國地方に應募出願を勸ひ移民關係者の調査を行はしめ、最近までにその選定を行つた結果四國から二十名、九州からは大分七名、福岡七名、佐賀七名、長崎五名、熊本十五名、鹿兒島十名、宮崎八名、それに内地から七名、計九十名の採用を決定、十五日附にて其の採用の通知を發送した

◇—◇

沙山村は移住適地約二千甲に此處に昭和七年度から移民募集を開始したが、その間七年度は十八名、八年度も十八名、九年度は二十名を移住せしめ、本年度に前記九十名を入れ合計百四十六名を以つて此の地に於ける四ケ年計畫の實行計畫を終ることとなつたのである、さて今回按手は昨年から今年の初めにかけて大分縣を振出しに九州一圓を縮帶り詳さに内地關係の實情を踏査して歸朝したが、その際話にによれば次の如き興味ある事情が横はれる

◇—◇

内地に殘留に行つて見て呉つたことは沙山の關係移住者が内地の郷里に對し移民村の現狀は將來性について詳しく通信してゐたために殘留の移民事業は内地の農村に可成り熱心されてゐた舉であつた、内地（移民を募集に行くものは殆ど北海道からも大々的の宣傳で募集しつつあり、臺灣から出掛けて行つたときは既に滿洲、北海道の分は選定濟みとなつてゐたため立遲れの感があり殊に内地に於つたが、どうしてどうして實際は遙かに歡迎を受けて限りなき心强さを感じたのである

◇—◇

聞き取り殊に國への移住は非常に困難であると見て既に移住した者からは方々しがらみ頼りが聞いてゐるし新に希望する者も少く、唯だ物入りの宣傳にも耳をかさぬ狀態であつた、然るに臺灣は移住者が内地の郷里に對し移民村の現狀は將來性について詳しく通信してゐたために殘留の移民事業は内地の農村に可成り熱心されてゐる

◇—◇

そこで之が調査をなすには充分立入つた調査をやらねばなりず今年も從來通りでは不充分なので時間を要さねばならぬと考慮してゐたが、行つて見て從外の感に打たれたといふのは近來の内地農村は不況どころか非常に進んで居り、何れも昨年の收支目算つけ、その實況に驚めつゝ生活してゐるので、併し農家の生活は依然として苦しさの中に物入り勝分で不況の感じ

ちに他に轉出し發生を期したいとの希望に燃えてゐる、馬や家具などを賣拂つて募集に應ずるものも少くても三、四百圓の資金は出來るから、この程度の者は何とかして他地方への移住の途を講じてゐるといふ次第である

◇—◇

ところで臺灣から出掛けて募集をやつたのであるが、その方法は先づ新聞廣告をなしそれから官公立の學校、市町村の青年學校で臺灣事情の講演をやるといつたやり方でありただそれで應募者もあるが、それで應募者も應募民も要手を擧げて臺灣へ來り、五十數名の定員に對し大分應募は二十名、同佐賀、長崎の各縣は三十名熊本は六十名、鹿兒島は五十數名、宮崎は二十五名ばかりの優秀の申込

みを受けたのである、此ういう特に優秀と認められたものは百七十名であつた、これを更に嚴選して九州地方は全部で五十四名に絞り込めばならぬ結果となつた

◇—◇

最後に一言したいことは應募採用になつたものに就いてであるが、彼等は、二ケ月のうちに家財整理の上早きは二月上旬遅くも三月下旬までに移住地に落つくものと思はれる、幸なことに彼等の家族の中には臺擧大工、左官、屋根職工などに應募の有る者多く非常に好都合である、又移住に際し心なのは假等ばかりでなく農業勞力も大量に乘りで、鹿兒島縣の如きは今次の移住者を同伴して滿洲に渡り、其地に大農地の開墾に從事したいと申込んで來てゐるほどの熱心さである

豫定通りとみて 財界は靜觀的態度

軍需關係業は活況を持續せんも 財政金融への重壓免れずか

【東京十六日發本社特電】軍縮會議決裂後の我國財政は各國の建艦競爭から惹いて軍事費の膨脹を豫想され之と合せて大藏當局の堅持する健全財政主義に一大暗影を投ずる事となるのではないかと危惧されてゐるが、この國防と財政の調和に關する重大問題を繞つて早くも財界一部に增稅論さへ擡頭するので高橋藏相は最近非常に苦心を要し、緊急なる休會劈頭の財政演說に於て增稅の時期尙早なる事と軍縮會議決裂後の軍事費の膨脹阻止とを强調力說する事に方針を決定した

國防と財政に關しては十日閣議に於ても此の如く、增稅の時期尙早なる事と軍縮會議決裂後の軍事費の膨脹阻止とを强調力說する事に方針を決定した

當局者が說明してゐるものとは考へられない、元來我國の外交方針は國際協調脫退の當時から一貫して國防と財政の調和に重點を置いてゐるのであつて、今回の軍縮方針に於ても不脅威不侵略の原則を以て終始一貫する國の平和の維持を眼目に置いてゐるのであつて、今回の軍縮會議決裂の結果我國に於ても不脅威不侵略の原則を以て終始一貫する國の平和の維持を眼目に置いてゐるのであるから、會議が決裂になつたからと云つてその爲め國防費が急に增ふる等の事は絶對にないのである、從つて之が爲め財政が急迫して增稅を急ぐ必要は毫も無いが唯だ何時の事變が突發するかも知れないので高橋藏相は最も警戒を要し緊張し休會劈頭の財政演說に於ても增稅の時期尙早なる事と軍縮會議決裂後の軍事費の膨脹阻止とを强調力說する事に方針を決定した

當局者が說明してゐるものとは考へられない、元來我國の外交方針は國際協調脫退の當時から一貫して國防と財政の調和に重點を置いてゐるのであつて、今回の軍縮方針に於ても不脅威不侵略の原則を以て終始一貫する國の平和の維持を眼目に置いてゐるのであつて、今回の軍縮會議決裂の結果我國に於ても不脅威不侵略の原則を以て終始一貫する國の平和の維持を眼目に置いてゐるのであるから、會議が決裂になつたからと云つてその爲め國防費が急に增ふる等の事は絶對にないのである、從つて之が爲め財政が急迫して增稅を急ぐ必要は毫も無いが唯だ何時の事變が突發するかも知れないので高橋藏相は最も警戒を要し緊張し休會劈頭の財政演說に於ても增稅の時期尙早なる事と軍縮會議決裂後の軍事費の膨脹阻止とを强調力說する事に方針を決定した

昨年中の對滿、支、南洋貿易（臺灣）

滿洲の外は著しく增加し 差引入超は減

（財務局調査）昨年中に於ける臺灣の對滿洲、支那、南洋貿易は左の如くで、滿洲は輸出入共に增加し、支那は輸出は增加したが輸入は減少した爲め入超は減じ、南洋は輸出入共に減少した爲め入超は增加してゐる

軍縮脫退こ我が財界

決裂したからとて 國防費膨脹は來すまい

從つて增稅を急ぐ必要もない

高橋藏相談

鐵材の移輸入

千六百四萬圓

鐵道省の工業動員課に於ては各國の建艦競爭から惹いて軍事費の膨脹を豫想され之と合せて大藏當局の堅持する健全財政主義に一大暗影を投ずる事となるのではないかと危惧されてゐるが、この國防と財政の調和に關する重大問題を繞つて早くも財界一部に增稅論さへ擡頭するので高橋藏相は最も警戒を要し緊張し休會劈頭の財政演說に於ても增稅の時期尙早なる事と軍縮會議決裂後の軍事費の膨脹阻止とを强調力說する事に方針を決定した

豫定通りとみて 財界は靜觀的態度

軍需關係業は活況を持續せんも 財政金融への重壓免れずか

【東京十六日發本社特電】軍縮會議決裂後の我國財政は各國の建艦競爭から惹いて軍事費の膨脹を豫想され之と合せて大藏當局の堅持する健全財政主義に一大暗影を投ずる事となるのではないかと危惧されてゐるが、この國防と財政の調和に關する重大問題を繞つて早くも財界一部に增稅論さへ擡頭するので高橋藏相は最も警戒を要し緊張し休會劈頭の財政演說に於ても增稅の時期尙早なる事と軍縮會議決裂後の軍事費の膨脹阻止とを强調力說する事に方針を決定した

海外新市場に 邦品陳列所を開設

外務當局が計畫

第二十三回通常總會を開催するとなり、組合員に通知したが總會への上程事項次の如くである

△報告事項 昭和十年度業務報告 ▲同決算報告 ▲役員用慰勞金支出承認の件

第二十三回通常總會を開催するとなり、組合員に通知したが總會への上程事項次の如くである

△報告事項 昭和十年度業務報告 ▲同決算報告 ▲役員用慰勞金支出承認の件

△輸入 仕出地 本年 增減 千圓 民國 關洲 大連 香港 澳門 南洋 總計 △輸出 仕向地 本年 增減 千圓 民國 關洲 大連 香港 澳門 南洋 總計

△輸入 仕出地 本年 增減 千圓 民國 關洲 大連 香港 澳門 南洋 總計 △輸出 仕向地 本年 增減 千圓 民國 關洲 大連 香港 澳門 南洋 總計

臨糖の今期實績

一月に入り步留上昇 登蔗遲延で作業順延

臺北信用組合

二十四日總會 配當は一割

臺北信用組合に於ては來る二十四日午前十時より鐵道ホテルに於て

島内肥料相場

現物基隆倉渡

硫安	一圓八〇錢
同	一圓八二錢
過燐酸（七圓五〇錢）	一圓三〇錢
同（七圓五五錢）	一圓三一錢
硫酸加里（九五%）	二圓九〇錢

島内米穀

大阪期米後場

限	先	中	後
一	一八五	一八五	一八五
二	一八五	一八五	一八五
三	一八五	一八五	一八五
四	一八五	一八五	一八五
五	一八五	一八五	一八五
六	一八五	一八五	一八五
七	一八五	一八五	一八五
八	一八五	一八五	一八五
九	一八五	一八五	一八五
十	一八五	一八五	一八五
十一	一八五	一八五	一八五
十二	一八五	一八五	一八五

東京期米後場

限	先	中	後
一	一八五	一八五	一八五
二	一八五	一八五	一八五
三	一八五	一八五	一八五
四	一八五	一八五	一八五
五	一八五	一八五	一八五
六	一八五	一八五	一八五
七	一八五	一八五	一八五
八	一八五	一八五	一八五
九	一八五	一八五	一八五
十	一八五	一八五	一八五
十一	一八五	一八五	一八五
十二	一八五	一八五	一八五

神戸期米後場

限	先	中	後
一	一八五	一八五	一八五
二	一八五	一八五	一八五
三	一八五	一八五	一八五
四	一八五	一八五	一八五
五	一八五	一八五	一八五
六	一八五	一八五	一八五
七	一八五	一八五	一八五
八	一八五	一八五	一八五
九	一八五	一八五	一八五
十	一八五	一八五	一八五
十一	一八五	一八五	一八五
十二	一八五	一八五	一八五

東京短期後場

限	先	中	後
一	一八五	一八五	一八五
二	一八五	一八五	一八五
三	一八五	一八五	一八五
四	一八五	一八五	一八五
五	一八五	一八五	一八五
六	一八五	一八五	一八五
七	一八五	一八五	一八五
八	一八五	一八五	一八五
九	一八五	一八五	一八五
十	一八五	一八五	一八五
十一	一八五	一八五	一八五
十二	一八五	一八五	一八五

大阪長期後場

限	先	中	後
一	一八五	一八五	一八五
二	一八五	一八五	一八五
三	一八五	一八五	一八五
四	一八五	一八五	一八五
五	一八五	一八五	一八五
六	一八五	一八五	一八五
七	一八五	一八五	一八五
八	一八五	一八五	一八五
九	一八五	一八五	一八五
十	一八五	一八五	一八五
十一	一八五	一八五	一八五
十二	一八五	一八五	一八五

東京株況後場

東京株況前場

大阪株況

大阪綿絲

限	引
一	一九、七〇
二	一九、一〇
三	一九、九〇
四	一九、八〇
五	一九、七〇
六	一九、六〇
七	一九、五〇
八	一九、四〇
九	一九、三〇
十	一九、二〇
十一	一九、一〇
十二	一九、〇〇

大阪棉花

限	引
一	一七〇
二	一七一
三	一七二
四	一七三
五	一七四
六	一七五
七	一七六
八	一七七
九	一七八
十	一七九
十一	一八〇
十二	一八一

大阪人絹

限	引
一	一二〇
二	一二一
三	一二二
四	一二三
五	一二四
六	一二五
七	一二六
八	一二七
九	一二八
十	一二九
十一	一三〇
十二	一三一

橫濱生絲

限	引
一	一八、七〇
二	一八、八〇
三	一八、九〇
四	一九、〇〇
五	一九、一〇
六	一九、二〇
七	一九、三〇
八	一九、四〇
九	一九、五〇
十	一九、六〇
十一	一九、七〇
十二	一九、八〇

臺北州下の 產業組合總會

臺北州下の產業組合の總會は去る十三日午前十時より州廳樓上に於て開催されたが、出席者は各組合長代理者を合せて百二十餘名で、定刻に至るや知事代理として内務部長○○○氏は開會の辭を述べ、次で○○○氏を議長に選擧し、議事に入つたが、第一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第二十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第三十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第四十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第五十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第六十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第七十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第八十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第九十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百二十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百三十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百四十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百五十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百六十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百七十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八十號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八十一號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八十二號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八十三號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八十四號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八十五號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八十六號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八十七號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八十八號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合費賦課方法の件を附議し、原案通り可決確定した、次で第百八十九號議案として昭和十一年度臺北州下產業組合

街に散る花

(30)

竹田敏彦作

寺本忠雄畫

二つの婚約（十一）

二郎は、先刻の美容里の狂態を想いだして、ぎくりとした。

「美容里さんが、何かなさいましたか」

一郎も、久代の急きこんだ様子を、怪訝しげに見返した。

「何という失礼をでございますか……」

言ったが、そのままを繰返して聞かせる勇気は出なかった。

「とにかく手を附けて捜さうやないか……ちゃ私達は二人で坂本一丁目の方を捜してみます。お母さんはずっと浅初橋の方を捜してこらんなさいまし」

「でも公園の方は大丈夫かな」

「どうぞ、お願い申します」

久代は二人に頼んで、浅初橋の袂迄駆けてきた。

「同感を感じました。二人は有水寺坂の交番前で、公園と坂本の二途に別れた。

てっとう、その時分、美容里は美容里で、むしゃくしゃ腹から的もなく、坂本一丁目の停留所で電車を待つてゐた。

彼女は先刻、二郎に外された腹いせに、ぷりぷりして帰つてきた久代に怒り散らした挙げ句が、即後悔で、すぐ二郎も追つかけて行つたが、二郎の姿は見えなかつた。

「ばかばかしい、あんな人」

美容里はひどく照れて、感情に駆つたが、仕方なく後に従つた。

二郎とても、きつと戻つてくるつもりにきまつてゐる。

「にくらしい紙鳶かしに買められたが、結局は何もかもはつきりした方が、二人の為にも都合がいいやうに、美容里には思はれてならなかつた。が、それだけに朝の即が気掛かりで、美容里は低頂れたまま言葉も出なかつた。肩を並べて歩く二郎の眼には、さうした美容里の姿がにしほれた様にも、抱きしめたいほどの愛着を促した。

「矢張り、この人の傍から離れることだ」

彼は一郎の言葉を繰返した。

午前の部

【六・三〇】朝の挨拶、ラヂオ體操
今日のお天氣のお知らせ…東北

午後の部

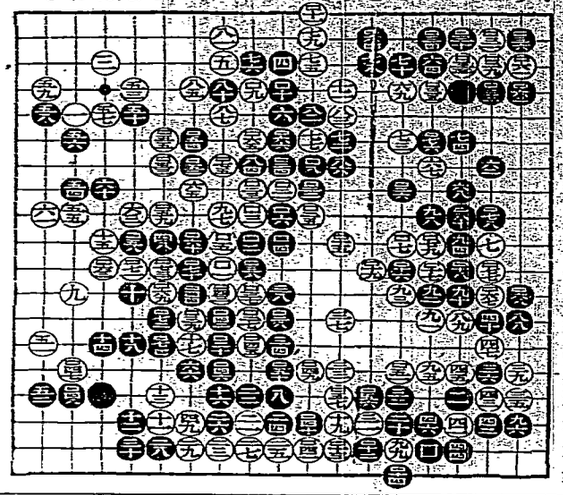
【一二・一五】正午の時報、気象通報・東北観測所発表
【〇・〇〇】放送局報、ニュース
【〇・〇二】作間映楽部開演（レコード演奏）八映画主題歌、ビング・クロスビー、イン・オールド・フォークス・アト・オールス（ワオスター作曲）「夢の島」（ハート作曲）ニューヨーク主題歌「眼の保養にピュー作曲」三映の裏主題歌「捨てないで水カーン作曲」ストリート・シンガー八ジャズ「ジャングル小唄（フォックス・トロット）二題出の深夜（フォックス・トロット）カサ・ロマ・オーケストラ 三題する身は変るも春（フォックス・トロット）ロイフ・オックス・オーケストラ
【一・〇〇至一・四〇】実業之日本社提供、実業之日本社提供
【一・四〇】全國気象通報（東京）
【二・〇〇】相撲実況（東京）春場所大相撲八日目・両國國技館より中継
【三・〇〇】子供の時間（東京）和洋合奏・若葉初音合奏曲「宿題大嫌異四郎」一旅行に出た鼠二、花嫁狐 三、街のお正月
【五・一〇】コドモの新聞（東京）
【五・三五】野草講座（雑報）英語の物語（第五講）上村一仁
【五・五五】カレント・トピックス（東京）
【六・〇〇】子供の時間（雑報）児童劇「仲好日の丸」（編丸ひう美作）日の出児童隊

青年の夕べ

【自六・三〇至八・三〇】東京（講演）東京の青年と文學」（國文學に関連された座談會）心一文學博士高木武 二、未定上村清延
【七・一〇】時報（東京）愛國の言葉（山田孝雄）一、偶成（山田佐作）二、舟中由良港吉田松陰作 三、有感（山崎闇斎作）四、山堂後坐思之友（木戸孝之作）
【七・二五】名作朗讀（東京）「凱旋」（趣味の遺像の一節）（夏目漱石作）土岐善麿
【七・四五】ラヂオドラマ（東京）「ジャンヌ・ダルク」（作亜須出版昌正作）久下喜子外天せい、第一景より第七景まで
【八・三〇】時報（東京）
【八・三一】朝日新聞社提供（朝日新聞社提供）伴奏管弦楽団演奏 一、荒城の月（土井晩翠作詞、瀧廉太郎作曲）二、野薔薇（文部省唱歌、作詞作曲）三、春の小川（高野辰之作詞、岡田和作曲）四、ゼンダ城・カアナボリ民謡）四、セレナード（シューベート作曲）五、私の大場（帝大同民謡）カプア作曲 六、歸れソルレント（帝大同民謡）カプア作曲 七、歸れソルレント（帝大同民謡）カプア作曲）
【八・三〇】時報（東京）
【八・三二】朝日新聞社提供（朝日新聞社提供）伴奏管弦楽団演奏 一、荒城の月（土井晩翠作詞、瀧廉太郎作曲）二、野薔薇（文部省唱歌、作詞作曲）三、春の小川（高野辰之作詞、岡田和作曲）四、ゼンダ城・カアナボリ民謡）四、セレナード（シューベート作曲）五、私の大場（帝大同民謡）カプア作曲 六、歸れソルレント（帝大同民謡）カプア作曲 七、歸れソルレント（帝大同民謡）カプア作曲）
【七・三〇】ニュース（東京）
【七・四〇】ラヂオドラマ（東京）「ジャンヌ・ダルク」（作亜須出版昌正作）久下喜子外天せい、第一景より第七景まで
【八・三〇】時報（東京）
【八・三一】朝日新聞社提供（朝日新聞社提供）伴奏管弦楽団演奏 一、荒城の月（土井晩翠作詞、瀧廉太郎作曲）二、野薔薇（文部省唱歌、作詞作曲）三、春の小川（高野辰之作詞、岡田和作曲）四、ゼンダ城・カアナボリ民謡）四、セレナード（シューベート作曲）五、私の大場（帝大同民謡）カプア作曲 六、歸れソルレント（帝大同民謡）カプア作曲 七、歸れソルレント（帝大同民謡）カプア作曲）

本因坊名人棋譜（九）

	名人	本因坊
	四段	秀哉
	橋本宇太郎	三子



○一六一の三　十五分
●二六二の四　二分
○一七二の一　八分
●二六三の一　三分
○一八二の二　六分
●二六四の二　三分
○一九二の一　六分
●二六五の六　三分
○二〇二の一　六分
●二六六の六　三分
○二一二の一　六分
●二六七の六　三分
○二二二の一　六分
●二六八の六　三分
○二三二の一　六分
●二六九の六　三分
○二四二の一　六分
●二七〇の六　三分
○二五二の一　六分
●二七一の六　三分
○二六二の一　六分
●二七二の六　三分
○二七二の一　六分
●二七三の六　三分
○二八二の一　六分
●二七四の六　三分
○二九二の一　六分
●二七五の六　三分
○三〇二の一　六分
●二七六の六　三分
○三一二の一　六分
●二七七の六　三分
○三二二の一　六分
●二七八の六　三分
○三三二の一　六分
●二七九の六　三分
○三四二の一　六分
●二八〇の六　三分
○三五二の一　六分
●二八一の六　三分
○三六二の一　六分
●二八二の六　三分
○三七二の一　六分
●二八三の六　三分
○三八二の一　六分
●二八四の六　三分
○三九二の一　六分
●二八五の六　三分
○四〇二の一　六分
●二八六の六　三分
○四一二の一　六分
●二八七の六　三分
○四二二の一　六分
●二八八の六　三分
○四三二の一　六分
●二八九の六　三分
○四四二の一　六分
●二九〇の六　三分
○四五二の一　六分
●二九一の六　三分
○四六二の一　六分
●二九二の六　三分
○四七二の一　六分
●二九三の六　三分
○四八二の一　六分
●二九四の六　三分
○四九二の一　六分
●二九五の六　三分
○五〇二の一　六分
●二九六の六　三分
○五一二の一　六分
●二九七の六　三分
○五二二の一　六分
●二九八の六　三分
○五三二の一　六分
●二九九の六　三分
○五四二の一　六分
●三〇〇の六　三分
○五五二の一　六分
●三〇一の六　三分
○五六二の一　六分
●三〇二の六　三分
○五七二の一　六分
●三〇三の六　三分
○五八二の一　六分
●三〇四の六　三分
○五九二の一　六分
●三〇五の六　三分
○六〇二の一　六分
●三〇六の六　三分
○六一二の一　六分
●三〇七の六　三分
○六二二の一　六分
●三〇八の六　三分
○六三二の一　六分
●三〇九の六　三分
○六四二の一　六分
●三一〇の六　三分
○六五二の一　六分
●三一一の六　三分
○六六二の一　六分
●三一二の六　三分
○六七二の一　六分
●三一三の六　三分
○六八二の一　六分
●三一四の六　三分
○六九二の一　六分
●三一五の六　三分
○七〇二の一　六分
●三一六の六　三分
○七一二の一　六分
●三一七の六　三分
○七二二の一　六分
●三一八の六　三分
○七三二の一　六分
●三一九の六　三分
○七四二の一　六分
●三二〇の六　三分
○七五二の一　六分
●三二一の六　三分
○七六二の一　六分
●三二二の六　三分
○七七二の一　六分
●三二三の六　三分
○七八二の一　六分
●三二四の六　三分
○七九二の一　六分
●三二五の六　三分
○八〇二の一　六分
●三二六の六　三分
○八一二の一　六分
●三二七の六　三分
○八二二の一　六分
●三二八の六　三分
○八三二の一　六分
●三二九の六　三分
○八四二の一　六分
●三三〇の六　三分
○八五二の一　六分
●三三一の六　三分
○八六二の一　六分
●三三二の六　三分
○八七二の一　六分
●三三三の六　三分
○八八二の一　六分
●三三四の六　三分
○八九二の一　六分
●三三五の六　三分
○九〇二の一　六分
●三三六の六　三分
○九一二の一　六分
●三三七の六　三分
○九二二の一　六分
●三三八の六　三分
○九三二の一　六分
●三三九の六　三分
○九四二の一　六分
●三四〇の六　三分
○九五二の一　六分
●三四一の六　三分
○九六二の一　六分
●三四二の六　三分
○九七二の一　六分
●三四三の六　三分
○九八二の一　六分
●三四四の六　三分
○九九二の一　六分
●三四五の六　三分
○一〇〇二の一　六分
●三四六の六　三分
○一〇一二の一　六分
●三四七の六　三分
○一〇二二の一　六分
●三四八の六　三分
○一〇三二の一　六分
●三四九の六　三分
○一〇四二の一　六分
●三五〇の六　三分
○一〇五二の一　六分
●三五一の六　三分
○一〇六二の一　六分
●三五二の六　三分
○一〇七二の一　六分
●三五三の六　三分
○一〇八二の一　六分
●三五四の六　三分
○一〇九二の一　六分
●三五五の六　三分
○一一〇二の一　六分
●三五六の六　三分
○一一一二の一　六分
●三五七の六　三分
○一一二二の一　六分
●三五八の六　三分
○一一三二の一　六分
●三五九の六　三分
○一一四二の一　六分
●三六〇の六　三分
○一一五二の一　六分
●三六一の六　三分
○一一六二の一　六分
●三六二の六　三分
○一一七二の一　六分
●三六三の六　三分
○一一八二の一　六分
●三六四の六　三分
○一一九二の一　六分
●三六五の六　三分
○一二〇二の一　六分
●三六六の六　三分
○一二一二の一　六分
●三六七の六　三分
○一二二二の一　六分
●三六八の六　三分
○一二三二の一　六分
●三六九の六　三分
○一二四二の一　六分
●三七〇の六　三分
○一二五二の一　六分
●三七一の六　三分
○一二六二の一　六分
●三七二の六　三分
○一二七二の一　六分
●三七三の六　三分
○一二八二の一　六分
●三七四の六　三分
○一二九二の一　六分
●三七五の六　三分
○一三〇二の一　六分
●三七六の六　三分
○一三一二の一　六分
●三七七の六　三分
○一三二二の一　六分
●三七八の六　三分
○一三三二の一　六分
●三七九の六　三分
○一三四二の一　六分
●三八〇の六　三分
○一三五二の一　六分
●三八一の六　三分
○一三六二の一　六分
●三八二の六　三分
○一三七二の一　六分
●三八三の六　三分
○一三八二の一　六分
●三八四の六　三分
○一三九二の一　六分
●三八五の六　三分
○一四〇二の一　六分
●三八六の六　三分
○一四一二の一　六分
●三八七の六　三分
○一四二二の一　六分
●三八八の六　三分
○一四三二の一　六分
●三八九の六　三分
○一四四二の一　六分
●三九〇の六　三分
○一四五二の一　六分
●三九一の六　三分
○一四六二の一　六分
●三九二の六　三分
○一四七二の一　六分
●三九三の六　三分
○一四八二の一　六分
●三九四の六　三分
○一四九二の一　六分
●三九五の六　三分
○一五〇二の一　六分
●三九六の六　三分
○一五一二の一　六分
●三九七の六　三分
○一五二二の一　六分
●三九八の六　三分
○一五三二の一　六分
●三九九の六　三分
○一五四二の一　六分
●四〇〇の六　三分
○一五五二の一　六分
●四〇一の六　三分
○一五六二の一　六分
●四〇二の六　三分
○一五七二の一　六分
●四〇三の六　三分
○一五八二の一　六分
●四〇四の六　三分
○一五九二の一　六分
●四〇五の六　三分
○一六〇二の一　六分
●四〇六の六　三分
○一六一二の一　六分
●四〇七の六　三分
○一六二二の一　六分
●四〇八の六　三分
○一六三二の一　六分
●四〇九の六　三分
○一六四二の一　六分
●四一〇の六　三分
○一六五二の一　六分
●四一一の六　三分
○一六六二の一　六分
●四一二の六　三分
○一六七二の一　六分
●四一三の六　三分
○一六八二の一　六分
●四一四の六　三分
○一六九二の一　六分
●四一五の六　三分
○一七〇二の一　六分
●四一六の六　三分
○一七一二の一　六分
●四一七の六　三分
○一七二二の一　六分
●四一八の六　三分
○一七三二の一　六分
●四一九の六　三分
○一七四二の一　六分
●四二〇の六　三分
○一七五二の一　六分
●四二一の六　三分
○一七六二の一　六分
●四二二の六　三分
○一七七二の一　六分
●四二三の六　三分
○一七八二の一　六分
●四二四の六　三分
○一七九二の一　六分
●四二五の六　三分
○一八〇二の一　六分
●四二六の六　三分
○一八一二の一　六分
●四二七の六　三分
○一八二二の一　六分
●四二八の六　三分
○一八三二の一　六分
●四二九の六　三分
○一八四二の一　六分
●四三〇の六　三分
○一八五二の一　六分
●四三一の六　三分
○一八六二の一　六分
●四三二の六　三分
○一八七二の一　六分
●四三三の六　三分
○一八八二の一　六分
●四三四の六　三分
○一八九二の一　六分
●四三五の六　三分
○一九〇二の一　六分
●四三六の六　三分
○一九一二の一　六分
●四三七の六　三分
○一九二二の一　六分
●四三八の六　三分
○一九三二の一　六分
●四三九の六　三分
○一九四二の一　六分
●四四〇の六　三分
○一九五二の一　六分
●四四一の六　三分
○一九六二の一　六分
●四四二の六　三分
○一九七二の一　六分
●四四三の六　三分
○一九八二の一　六分
●四四四の六　三分
○一九九二の一　六分
●四四五の六　三分
○二〇〇二の一　六分
●四四六の六　三分
○二〇一二の一　六分
●四四七の六　三分
○二〇二二の一　六分
●四四八の六　三分
○二〇三二の一　六分
●四四九の六　三分
○二〇四二の一　六分
●四五〇の六　三分
○二〇五二の一　六分
●四五一の六　三分
○二〇六二の一　六分
●四五二の六　三分
○二〇七二の一　六分
●四五三の六　三分
○二〇八二の一　六分
●四五四の六　三分
○二〇九二の一　六分
●四五五の六　三分
○二一〇二の一　六分
●四五六の六　三分
○二一一二の一　六分
●四五七の六　三分
○二一二二の一　六分
●四五八の六　三分
○二一三二の一　六分
●四五九の六　三分
○二一四二の一　六分
●四六〇の六　三分
○二一五二の一　六分
●四六一の六　三分
○二一六二の一　六分
●四六二の六　三分
○二一七二の一　六分
●四六三の六　三分
○二一八二の一　六分
●四六四の六　三分
○二一九二の一　六分
●四六五の六　三分
○二二〇二の一　六分
●四六六の六　三分
○二二一二の一　六分
●四六七の六　三分
○二二二二の一　六分
●四六八の六　三分
○二二三二の一　六分
●四六九の六　三分
○二二四二の一　六分
●四七〇の六　三分
○二二五二の一　六分
●四七一の六　三分
○二二六二の一　六分
●四七二の六　三分
○二二七二の一　六分
●四七三の六　三分
○二二八二の一　六分
●四七四の六　三分
○二二九二の一　六分
●四七五の六　三分
○二三〇二の一　六分
●四七六の六　三分
○二三一二の一　六分
●四七七の六　三分
○二三二二の一　六分
●四七八の六　三分
○二三三二の一　六分
●四七九の六　三分
○二三四二の一　六分
●四八〇の六　三分
○二三五二の一　六分
●四八一の六　三分
○二三六二の一　六分
●四八二の六　三分
○二三七二の一　六分
●四八三の六　三分
○二三八二の一　六分
●四八四の六　三分
○二三九二の一　六分
●四八五の六　三分
○二四〇二の一　六分
●四八六の六　三分
○二四一二の一　六分
●四八七の六　三分
○二四二二の一　六分
●四八八の六　三分
○二四三二の一　六分
●四八九の六　三分
○二四四二の一　六分
●四九〇の六　三分
○二四五二の一　六分
●四九一の六　三分
○二四六二の一　六分
●四九二の六　三分
○二四七二の一　六分
●四九三の六　三分
○二四八二の一　六分
●四九四の六　三分
○二四九二の一　六分
●四九五の六　三分
○二五〇二の一　六分
●四九六の六　三分
○二五一二の一　六分
●四九七の六　三分
○二五二二の一　六分
●四九八の六　三分
○二五三二の一　六分
●四九九の六　三分
○二五四二の一　六分
●五〇〇の六　三分
○二五五二の一　六分
●五〇一の六　三分
○二五六二の一　六分
●五〇二の六　三分
○二五七二の一　六分
●五〇三の六　三分
○二五八二の一　六分
●五〇四の六　三分
○二五九二の一　六分
●五〇五の六　三分
○二六〇二の一　六分
●五〇六の六　三分
○二六一二の一　六分
●五〇七の六　三分
○二六二二の一　六分
●五〇八の六　三分
○二六三二の一　六分
●五〇九の六　三分
○二六四二の一　六分
●五一〇の六　三分
○二六五二の一　六分
●五一一の六　三分
○二六六二の一　六分
●五一二の六　三分
○二六七二の一　六分
●五一三の六　三分
○二六八二の一　六分
●五一四の六　三分
○二六九二の一　六分
●五一五の六　三分
○二七〇二の一　六分
●五一六の六　三分
○二七一二の一　六分
●五一七の六　三分
○二七二二の一　六分
●五一八の六　三分
○二七三二の一　六分
●五一九の六　三分
○二七四二の一　六分
●五二〇の六　三分
○二七五二の一　六分
●五二一の六　三分
○二七六二の一　六分
●五二二の六　三分
○二七七二の一　六分
●五二三の六　三分
○二七八二の一　六分
●五二四の六　三分
○二七九二の一　六分
●五二五の六　三分
○二八〇二の一　六分
●五二六の六　三分
○二八一二の一　六分
●五二七の六　三分
○二八二二の一　六分
●五二八の六　三分
○二八三二の一　六分
●五二九の六　三分
○二八四二の一　六分
●五三〇の六　三分
○二八五二の一　六分
●五三一の六　三分
○二八六二の一　六分
●五三二の六　三分
○二八七二の一　六分
●五三三の六　三分
○二八八二の一　六分
●五三四の六　三分
○二八九二の一　六分
●五三五の六　三分
○二九〇二の一　六分
●五三六の六　三分
○二九一二の一　六分
●五三七の六　三分
○二九二二の一　六分
●五三八の六　三分
○二九三二の一　六分
●五三九の六　三分
○二九四二の一　六分
●五四〇の六　三分
○二九五二の一　六分
●五四一の六　三分
○二九六二の一　六分
●五四二の六　三分
○二九七二の一　六分
●五四三の六　三分
○二九八二の一　六分
●五四四の六　三分
○二九九二の一　六分
●五四五の六　三分
○三〇〇二の一　六分
●五四六の六　三分
○三〇一二の一　六分
●五四七の六　三分
○三〇二二の一　六分
●五四八の六　三分
○三〇三二の一　六分
●五四九の六　三分
○三〇四二の一　六分
●五五〇の六　三分
○三〇五二の一　六分
●五五一の六　三分
○三〇六二の一　六分
●五五二の六　三分
○三〇七二の一　六分
●五五三の六　三分
○三〇八二の一　六分
●五五四の六　三分
○三〇九二の一　六分
●五五五の六　三分
○三一〇二の一　六分
●五五六の六　三分
○三一一二の一　六分
●五五七の六　三分
○三一二二の一　六分
●五五八の六　三分
○三一三二の一　六分
●五五九の六　三分
○三一四二の一　六分
●五六〇の六　三分
○三一五二の一　六分
●五六一の六　三分
○三一六二の一　六分
●五六二の六　三分
○三一七二の一　六分
●五六三の六　三分
○三一八二の一　六分
●五六四の六　三分
○三一九二の一　六分
●五六五の六　三分
○三二〇二の一　六分
●五六六の六　三分
○三二一二の一　六分
●五六七の六　三分
○三二二二の一　六分
●五六八の六　三分
○三二三二の一　六分
●五六九の六　三分
○三二四二の一　六分
●五七〇の六　三分
○三二五二の一　六分
●五七一の六　三分
○三二六二の一　六分
●五七二の六　三分
○三二七二の一　六分
●五七三の六　三分
○三二八二の一　六分
●五七四の六　三分
○三二九二の一　六分
●五七五の六　三分
○三三〇二の一　六分
●五七六の六　三分
○三三一二の一　六分
●五七七の六　三分
○三三二二の一　六分
●五七八の六　三分
○三三三二の一　六分
●五七九の六　三分
○三三四二の一　六分
●五八〇の六　三分
○三三五二の一　六分
●五八一の六　三分
○三三六二の一　六分
●五八二の六　三分
○三三七二の一　六分
●五八三の六　三分
○三三八二の一　六分
●五八四の六　三分
○三三九二の一　六分
●五八五の六　三分
○三四〇二の一　六分
●五八六の六　三分
○三四一二の一　六分
●五八七の六　三分
○三四二二の一　六分
●五八八の六　三分
○三四三二の一　六分
●五八九の六　三分
○三四四二の一　六分
●五九〇の六　三分
○三四五二の一　六分
●五九一の六　三分
○三四六二の一　六分
●五九二の六　三分
○三四七二の一　六分
●五九三の六　三分
○三四八二の一　六分
●五九四の六　三分
○三四九二の一　六分
●五九五の六　三分
○三五〇二の一　六分
●五九六の六　三分
○三五一二の一　六分
●五九七の六　三分
○三五二二の一　六分
●五九八の六　三分
○三五三二の一　六分
●五九九の六　三分
○三五四二の一　六分
●六〇〇の六　三分
○三五五二の一　六分
●六〇一の六　三分
○三五六二の一　六分
●六〇二の六　三分
○三五七二の一　六分
●六〇三の六　三分
○三五八二の一　六分
●六〇四の六　三分
○三五九二の一　六分
●六〇五の六　三分
○三六〇二の一　六分
●六〇六の六　三分
○三六一二の一　六分
●六〇七の六　三分
○三六二二の一　六分
●六〇八の六　三分
○三六三二の一　六分
●六〇九の六　三分
○三六四二の一　六分
●六一〇の六　三分
○三六五二の一　六分
●六一一の六　三分
○三六六二の一　六分
●六一二の六　三分
○三六七二の一　六分
●六一三の六　三分
○三六八二の一　六分
●六一四の六　三分
○三六九二の一　六分
●六一五の六　三分
○三七〇二の一　六分
●六一六の六　三分
○三七一二の一　六分
●六一七の六　三分
○三七二二の一　六分
●六一八の六　三分
○三七三二の一　六分
●六一九の六　三分
○三七四二の一　六分
●六二〇の六　三分
○三七五二の一　六分
●六二一の六　三分
○三七六二の一　六分
●六二二の六　三分
○三七七二の一　六分
●六二三の六　三分
○三七八二の一　六分
●六二四の六　三分
○三七九二の一　六分
●六二五の六　三分
○三八〇二の一　六分
●六二六の六　三分
○三八一二の一　六分
●六二七の六　三分
○三八二二の一　六分
●六二八の六　三分
○三八三二の一　六分
●六二九の六　三分
○三八四二の一　六分
●六三〇の六　三分
○三八五二の一　六分
●六三一の六　三分
○三八六二の一　六分
●六三二の六　三分
○三八七二の一　六分
●六三三の六　三分
○三八八二の一　六分
●六三四の六　三分
○三八九二の一　六分
●六三五の六　三分
○三九〇二の一　六分
●六三六の六　三分
○三九一二の一　六分
●六三七の六　三分
○三九二二の一　六分
●六三八の六　三分
○三九三二の一　六分
●六三九の六　三分
○三九四二の一　六分
●六四〇の六　三分
○三九五二の一　六分
●六四一の六　三分
○三九六二の一　六分
●六四二の六　三分
○三九七二の一　六分
●六四三の六　三分
○三九八二の一　六分
●六四四の六　三分
○三九九二の一　六分
●六四五の六　三分
○四〇〇二の一　六分
●六四六の六　三分
○四〇一二の一　六分
●六四七の六　三分
○四〇二二の一　六分
●六四八の六　三分
○四〇三二の一　六分
●六四九の六　三分
○四〇四二の一　六分
●六五〇の六　三分
○四〇五二の一　六分
●六五一の六　三分
○四〇六二の一　六分
●六五二の六　三分
○四〇七二の一　六分
●六五三の六　三分
○四〇八二の一　六分
●六五四の六　三分
○四〇九二の一　六分
●六五五の六　三分
○四一〇二の一　六分
●六五六の六　三分
○四一一二の一　六分
●六五七の六　三分
○四一二二の一　六分
●六五八の六　三分
○四一三二の一　六分
●六五九の六　三分
○四一四二の一　六分
●六六〇の六　三分
○四一五二の一　六分
●六六一の六　三分
○四一六二の一　六分
●六六二の六　三分
○四一七二の一　六分
●六六三の六　三分
○四一八二の一　六分
●六六四の六　三分
○四一九二の一　六分
●六六五の六　三分
○四二〇二の一　六分
●六六六の六　三分
○四二一二の一　六分
●六六七の六　三分
○四二二二の一　六分
●六六八の六　三分
○四二三二の一　六分
●六六九の六　三分
○四二四二の一　六分
●六七〇の六　三分
○四二五二の一　六分
●六七一の六　三分
○四二六二の一　六分
●六七二の六　三分
○四二七二の一　六分
●六七三の六　三分
○四二八二の一　六分
●六七四の六　三分
○四二九二の一　六分
●六七五の六　三分
○四三〇二の一　六分
●六七六の六　三分
○四三一二の一　六分
●六七七の六　三分
○四三二二の一　六分
●六七八の六　三分
○四三三二の一　六分
●六七九の六　三分
○四三四二の一　六分
●六八〇の六　三分
○四三五二の一　六分
●六八一の六　三分
○四三六二の一　六分
●六八二の六　三分
○四三七二の一　六分
●六八三の六　三分
○四三八二の一　六分
●六八四の六　三分
○四三九二の一　六分
●六八五の六　三分
○四四〇二の一　六分
●六八六の六　三分
○四四一二の一　六分
●六八七の六　三分
○四四二二の一　六分
●六八八の六　三分
○四四三二の一　六分
●六八九の六　三分
○四四四二の一　六分
●六九〇の六　三分
○四四五二の一　六分
●六九一の六　三分
○四四六二の一　六分
●六九二の六　三分
○四四七二の一　六分
●六九三の六　三分
○四四八二の一　六分
●六九四の六　三分
○四四九二の一　六分
●六九五の六　三分
○四五〇二の一　六分
●六九六の六　三分
○四五一二の一　六分
●六九七の六　三分
○四五二二の一　六分
●六九八の六　三分
○四五三二の一　六分
●六九九の六　三分
○四五四二の一　六分
●七〇〇の六　三分
○四五五二の一　六分
●七〇一の六　三分
○四五六二の一　六分
●七〇二の六　三分
○四五七二の一　六分
●七〇三の六　三分
○四五八二の一　六分
●七〇四の六　三分
○四五九二の一　六分
●七〇五の六　三分
○四六〇二の一　六分
●七〇六の六　三分
○四六一二の一　六分
●七〇七の六　三分
○四六二二の一　六分
●七〇八の六　三分
○四六三二の一　六分
●七〇九の六　三分
○四六四二の一　六分
●七一〇の六　三分
○四六五二の一　六分
●七一一の六　三分
○四六六二の一　六分
●七一二の六　三分
○四六七二の一　六分
●七一三の六　三分
○四六八二の一　六分
●七一四の六　三分
○四六九二の一　六分
●七一五の六　三分
○四七〇二の一　六分
●七一六の六　三分
○四七一二の一　六分
●七一七の六　三分
○四七二二の一　六分
●七一八の六　三分
○四七三二の一　六分
●七一九の六　三分
○四七四二の一　六分
●七二〇の六　三分
○四七五二の一　六分
●七二一の六　三分
○四七六二の一　六分
●七二二の六　三分
○四七七二の一　六分
●七二三の六　三分
○四七八二の一　六分
●七二四の六　三分
○四七九二の一　六分
●七二五の六　三分
○四八〇二の一　六分
●七二六の六　三分
○四八一二の一　六分
●七二七の六　三分
○四八二二の一　六分
●七二八の六　三分
○四八三二の一　六分
●七二九の六　三分
○四八四二の一　六分
●七三〇の六　三分
○四八五二の一　六分
●七三一の六　三分
○四八六二の一　六分
●七三二の六　三分
○四八七二の一　六分
●七三三の六　三分
○四八八二の一　六分
●七三四の六　三分
○四八九二の一　六分
●七三五の六　三分
○四九〇二の一　六分
●七三六の六　三分
○四九一二の一　六分
●七三七の六　三分
○四九二二の一　六分
●七三八の六　三分
○四九三二の一　六分
●七三九の六　三分
○四九四二の一　六分
●七四〇の六　三分
○四九五二の一　六分
●七四一の六　三分
○四九六二の一　六分
●七四二の六　三分
○四九七二の一　六分
●七四三の六　三分
○四九八二の一　六分
●七四四の六　三分
○四九九二の一　六分
●七四五の六　三分
○五〇〇二の一　六分
●七四六の六　三分
○五〇一二の一　六分
●七四七の六　三分
○五〇二二の一　六分
●七四八の六　三分
○五〇三二の一　六分
●七四九の六　三分
○五〇四二の一　六分
●七五〇の六　三分
○五〇五二の一　六分
●七五一の六　三分
○五〇六二の一　六分
●七五二の六　三分
○五〇七二の一　六分
●七五三の六　三分
○五〇八二の一　六分
●七五四の六　三分
○五〇九二の一　六分
●七五五の六　三分
○五一〇二の一　六分
●七五六の六　三分
○五一一二の一　六分
●七五七の六　三分
○五一二二の一　六分
●七五八の六　三分
○五一三二の一　六分
●七五九の六　三分
○五一四二の一　六分
●七六〇の六　三分
○五一五二の一　六分
●七六一の六　三分
○五一六二の一　六分
●七六二の六　三分
○五一七二の一　六分
●七六三の六　三分
○五一八二の一　六分
●七六四の六　三分
○五一九二の一　六分
●七六五の六　三分
○五二〇二の一　六分
●七六六の六　三分
○五二一二の一　六分
●七六七の六　三分
○五二二二の一　六分
●七六八の六　三分
○五二三二の一　六分
●七六九の六　三分
○五二四二の一　六分
●七七〇の六　三分
○五二五二の一　六分
●七七一の六　三分
○五二六二の一　六分
●七七二の六　三分
○五二七二の一　六分
●七七三の六　三分
○五二八二の一　六分
●七七四の六　三分
○五二九二の一　六分
●七七五の六　三分
○五三〇二の一　六分
●七七六の六　三分
○五三一二の一　六分
●七七七の六　三分
○五三二二の一　六分
●七七八の六　三分
○五三三二の一　六分
●七七九の六　三分
○五三四二の一　六分
●七八〇の六　三分
○五三五二の一　六分
●七八一の六　三分
○五三六二の一　六分
●七八二の六　三分
○五三七二の一　六分
●七八三の六　三分
○五三八二の一　六分
●七八四の六　三分
○五三九二の一　六分
●七八五の六　三分
○五四〇二の一　六分
●七八六の六　三分
○五四一二の一　六分
●七八七の六　三分
○五四二二の一　六分
●七八八の六　三分
○五四三二の一　六分
●七八九の六　三分
○五四四二の一　六分
●七九〇の六　三分
○五四五二の一　六分
●七九一の六　三分
○五四六二の一　六分
●七九二の六　三分
○五四七二の一　六分
●七九三の六　三分
○五四八二の一　六分
●七九四の六　三分
○五四九二の一　六分
●七九五の六　三分
○五五〇二の一　六分
●七九六の六　三分
○五五一二の一　六分
●七九七の六　三分
○五五二二の一　六分
●七九八の六　三分
○五五三二の一　六分
●七九九の六　三分
○五五四二の一　六分
●八〇〇の六　三分
○五五五二の一　六分
●八〇一の六　三分
○五五六二の一　六分
●八〇二の六　三分
○五五七二の一　六分
●八〇三の六　三分
○五五八二の一　六分
●八〇四の六　三分
○五五九二の一　六分
●八〇五の六　三分
○五六〇二の一　六分
●八〇六の六　三分
○五六一二の一　六分
●八〇七の六　三分
○五六二二の一　六分
●八〇八の六　三分
○五六三二の一　六分
●八〇九の六　三分
○五六四二の一　六分
●八一〇の六　三分
○五六五二の一　六分
●八一一の六　三分
○五六六二の一　六分
●八一二の六　三分
○五六七二の一　六分
●八一三の六　三分
○五六八二の一　六分
●八一四の六　三分
○五六九二の一　六分
●八一五の六　三分
○五七〇二の一　六分
●八一六の六　三分
○五七一二の一　六分
●八一七の六　三分
○五七二二の一　六分
●八一八の六　三分
○五七三二の一　六分
●八一九の六　三分
○五七四二の一　六分
●八二〇の六　三分
○五七五二の一　六分
●八二一の六　三分
○五七六二の一　六分
●八二二の六　三分
○五七七二の一　六分
●八二三の六　三分
○五七八二の一　六分
●八二四の六　三分
○五七九二の一　六分
●八二五の六　三分
○五八〇二の一　六分
●八二六の六　三分
○五八一二の一　六分
●八二七の六　三分
○五八二二の一　六分
●八二八の六　三分
○五八三二の一　六分
●八二九の六　三分
○五八四二の一　六分
●八三〇の六　三分
○五八五二の一　六分
●八三一の六　三分
○五八六二の一　六分
●八三二の六　三分
○五八七二の一　六分
●八三三の六　三分
○五八八二の一　六分
●八三四の六　三分
○五八九二の一　六分
●八三五の六　三分
○五九〇二の一　六分
●八三六の六　三分
○五九一二の一　六分
●八三七の六　三分
○五九二二の一　六分
●八三八の六　三分
○五九三二の一　六分
●八三九の六　三分
○五九四二の一　六分
●八四〇の六　三分
○五九五二の一　六分
●八四一の六　三分
○五九六二の一　六分
●八四二の六　三分
○五九七二の一　六分
●八四三の六　三分
○五九八二の一　六分
●八四四の六　三分
○五九九二の一　六分
●八四五の六　三分
○六〇〇二の一　六分
●八四六の六　三分
○六〇一二の一　六分
●八四七の六　三分
○六〇二二の一　六分
●八四八の六　三分
○六〇三二の一　六分
●八四九の六　三分
○六〇四二の一　六分
●八五〇の六　三分
○六〇五二の一　六分
●八五一の六　三分
○六〇六二の一　六分
●八五二の六　三分
○六〇七二の一　六分
●八五三の六　三分
○六〇八二の一　六分
●八五四の六　三分
○六〇九二の一　六分
●八五五の六　三分
○六一〇二の一　六分
●八五六の六　三分
○六一一二の一　六分
●八五七の六　三分
○六一二二の一　六分
●八五八の六　三分
○六一三二の一　六分
●八五九の六　三分
○六一四二の一　六分
●八六〇の六　三分
○六一五二の一　六分
●八六一の六　三分
○六一六二の一　六分
●八六二の六　三分
○六一七二の一　六分
●八六三の六　三分
○六一八二の一　六分
●八六四の六　三分
○六一九二の一　六分
●八六五の六　三分
○六二〇二の一　六分
●八六六の六　三分
○六二一二の一　六分
●八六七の六　三分
○六二二二の一　六分
●八六八の六　三分
○六二三二の一　六分
●八六九の六　三分
○六二四二の一　六分
●八七〇の六　三分
○六二五二の一　六分
●八七一の六　三分
○六二六二の一　六分
●八七二の六　三分
○六二七二の一　六分
●八七三の六　三分
○六二八二の一　六分
●八七四の六　三分
○六二九二の一　六分
●八七五の六　三分
○六三〇二の一　六分
●八七六の六　三分
○六三一二の一　六分
●八七七の六　三分
○六三二二の一　六分
●八七八の六　三分
○六三三二の一　六分
●八七九の六　三分
○六三四二の一　六分
●八八〇の六　三分
○六三五二の一　六分
●八八一の六　三分
○六三六二の一　六分
●八八二の六　三分
○六三七二の一　六分
●八八三の六　三分
○六三八二の一　六分
●八八四の六　三分
○六三九二の一　六分
●八八五の六　三分
○六四〇二の一　六分
●八八六の六　三分
○六四一二の一　六分
●八八七の六　三分
○六四二二の一　六分
●八八八の六　三分
○六四三二の一　六分
●八八九の六　三分
○六四四二の一　六分
●八九〇の六　三分

世界旅行家こゝに稱する
怪外人が不審の行動
澳底方面の海岸を踏査
當局は嚴重に監視

【宜蘭電話】宜蘭郡警察當局では、十四日臺北から來宜職務に從事中の警部補一名、巡査一名を、澳底方面に派遣して、同地方面の海岸を踏査せしめたが、同地方面の海岸は、東北風の季節には、風浪激しく、船舶の碇泊に不適當の點あるので、内地中國人漁夫は、十四日頃迄に、悉く、基隆に引揚げ、同地方面の海岸は、全く無人の狀態となつてゐるに拘らず、突如として、外國人一名が、十四日頃、澳底に上陸し、同地方面の海岸を、測量してゐるとの、報告に接し、當局では、之を重大視し、直ちに、警官を派遣して、調査せしめたが、同人は

臺灣博覽會特輯

臺灣博を觀て何を感じたか

一等

臺北市榮小學校六年　永井守雄

「萬國と萬國とが互に交通して貿易をしてゐるから萬國の産物は世界中に行き渡つてゐるのだ」と先生が仰しやつたのは、十月十日からいよいよ開會になつた臺灣博覽會を見に行つた時でした。

私は臺灣博覽會と云ふものをよく知らないので父に尋ねたら、父は「萬國と萬國とが交通して貿易をしてゐるのだ」と云ふ事を教へて呉れました。

私は學校から歸つて、晝食をすますと、すぐ父と一緒に博覽會へ行きました。

會場へ入つて、先づ目についたのは、高い塔でした。父に聞いたら、あれは「燈臺」だと云ふ事でした。

燈臺の下には、大きな池があつて、その池には、日本の軍艦や、外國の軍艦の模型が浮かべてありました。

池の中には、大きな噴水があつて、水が高く上つてゐました。

池の周圍には、臺灣の名所舊蹟の模型が、澤山ありました。

それから、臺灣の産業の模型や、臺灣の風俗を現した人形などがありました。

それから、臺灣の名物の蕃人の模型もありました。

それから、臺灣の名物の蕃人の模型もありました。

それから、臺灣の名物の蕃人の模型も

けふ午後二時から 軍官民時局大會

參加人員は一萬名を突破し 督府前廣場を埋めん

對岸事變に關し北東官民大會は愈々けふ午後二時から總督府前廣場に開かれる、既報の如く參加人員は一萬名を突破し尚ほ續々申込みがあるので會場は總督府前廣場を中心として日本の進むべき道を大いにハッキリ認識したがりと全市民擧つてこの大會に參加する意味を表明してゐる、參加團體は實業團體、學校、各種團體、官公吏、一般市民を網羅し總勢一萬餘名に達する見込みである、大會は總督の挨拶、開會の辭、日米事變に關する講演、決議文朗讀、萬歳三唱、閉會の辭、君が代、大會宣言朗讀、萬歳三唱、君が代、大會長(中川總督府總務局長)、皇軍慰問、宣言決議、天皇陛下萬歳、中川總督府總務局長)、皇軍慰問、宣言決議、天皇陛下萬歳、(

臺廈間仲繼貿易品
籌設共同販賣機關
有力臺商開座談會

臺灣廈門兩水客所組織之臺灣貿易出口組合，自從年九月創立以來，對日無獲，甚且無出口之餘地，然因組合員之努力，終於成立共同販賣機關，以謀貨物之圓滑運出，而期利益之增進，故最近廈門水客，頗有到外國輸入採辦之傾向，一般臺灣商人，為防止此種趨勢，及謀臺灣物產之販路擴張，乃於十六日午後一時，假廈門市公會，開座談會，出席者有臺灣銀行廈門支店長山崎氏，臺灣總督府廈門出張所長大村氏，臺灣商工會議所廈門出張所長小林氏，廈門日本人商業會議所會頭山口氏，廈門日本人居留民會長林木土氏，及臺灣出身之有力者十餘名，開始後，先由山崎氏說明開會之趣旨，次由大村氏說明臺灣對廈門貿易之概況，次由小林氏說明臺灣對廈門貿易之概況，次由山口氏說明廈門對臺灣貿易之概況，次由林木土氏說明廈門水客之組織及其營業狀態，次由臺灣出身之有力者，說明臺灣對廈門貿易之意見，次即開始自由談話，至午後五時，始行閉會，茲將其談話之要點，分述如左，

（山崎氏）臺灣對廈門貿易，雖有年年增加之趨勢，然因廈門

（第二種郵便物認可）（毎日曜日発行）（昭和十一年五月九日第三種郵便物認可）

臺灣日日新報 夕刊

一月十六日 夕刊共四頁一部一錢

臺北市表町一丁目一番地 臺灣日日新報社 電話(三)一八九番 振替口座臺北一七〇番
臺中市寿町一丁目一番地 臺灣日日新報社臺中支局 電話(二)〇七番 振替口座臺中一〇番
臺南市末廣町二丁目一番地 臺灣日日新報社臺南支局 電話(二)〇七番 振替口座臺南一〇番
花蓮港市表通一丁目一番地 臺灣日日新報社花蓮港支局 電話(二)〇七番 振替口座臺南一〇番
大阪市西區初雁通一丁目一番地（ユタカビルディング内） 大阪支局 電話土佐堀(四)一八一〇番 振替口座大阪一〇七〇番
東京市京橋區銀座二丁目一番地 東京支局 電話京橋(五)一八一〇番 振替口座東京一〇七〇番

軍縮會議遂に決裂し 日本の脫退を通告す

永野全權が會議議長に

【ロンドン十五日發電通至急報】永野全權は十五日の第一委員會議後宿舍に引揚げるや直ちに會議議長モンセル英海相に宛て

公正妥當なる新軍縮の成立を目標とする日本の提案が各會議參加國の容るる所とならなかつたのは遺憾である、帝國としてはその主張の容れられざる限り本會議に居殘る事は無意味であるから玆に本會議より脫退するものである

旨の通告文を送致し日本に關する限り會議は玆に決裂した（號外再錄）

日本案は受諾せず

各國代表から、表明

昨日・最後の第一委員會

【ロンドン十五日發電通至急報】軍縮會議第一委員會は十五日午後二時（臺灣時刻午後十一時）よりクラレンス・ハウスに開會さる、日本側は永野、永井兩全權以下各隨員出席、勞頭永野全權起つて約四十五分に亙り日本の公正妥當なる主張を再度詳述し殊に日本は質的方面においては主力艦、航空母艦、甲級巡洋艦等の攻撃的武器の縮廢を斷行する

事の主張に力點を置き從來の說明を補足し我案の全貌を詳述した、これに續いてアメリカ、イギリス、フランス、イタリー、英屬領各代表より日本の提案の受諾しがたき所以を力說し、日本對各國の意見の相違は玆に明白とされ午後五時五十分（臺灣時刻十六日午前一時五十分）散會、五ケ國會議は玆に事實上決裂した（號外再錄）

我代表部から長文の 公式聲明書を發表

我主張と脫退の理由を闡明

【ロンドン十五日發電通】日本代表部では十五日午後七時軍縮會議脫退通告文を發送すると同時に長文の公式聲明書を和英兩文を以て發表し我が主張及び脫退理由の一切を公にした、その全文左の如し

一、今次會議において帝國は不侵略不可侵の軍隊を招來すべき軍備縮小の方針として

（イ）軍備の共通最大限を定めその限度內において各國夫々國防上必要とする最小限の軍備を整備し得るやうにすること

（ロ）攻撃的武器を全廢又は徹底的に縮減すること

（ハ）共通最大限を出來得る限り低く定めることなどを根本義として主張した

二、諸國家が夫々の國家安全に必要とする軍備を整備する權限を尊重し之を享有するは言ふまでもなく又それ等軍備制定の根本義である

三、軍縮問題は常に一國單一國の觀念により律せらるることを必要とするも、海陸兵力共通の均衡を保つことは均等兵力主義に依るの外なく從つて帝國の得喪且つ又動的關係に基つて帝國政府は各會議の主張に依つても之が最大限を出來得る限り低く定めらるることを主張した

四、他面において海軍力の移動性並に海上戰爭の特質から論じても國防の均衡を論ずるには兵力量の均等なることを必要とする觀察兵力の根幹となるものに就て特に祭りである、然し專ら防禦に使用さるる艦種は各國夫々の特殊事情に應じ適當なる制限をなして然るべきである

五、故に均等兵力の主義が實現されれば現狀として不可侵不可侵の目的を達し得るが、現狀を維持的ならしめんが爲に日本代表は次段階的兵力の削減又は大幅減をなし兵力內容を專ら防禦的のものたらしめることを主張する蓋し之が實現せる暁國安全感は全般的に增大し軍備縮小の趨向を生ずる事に至るであらう

六、以上は帝國の基本主義の基礎觀であり公正妥當なる軍縮協定はこれを基礎としてのみ始めて達成し得るものであると確信する

七、共通最大限、この姿は各國がお互の限度まで建設すべしといふのではなく軍に警察の最低限を規定し軍備制限はその國防上必要な最小限度に定めしとする事と同時に軍備制定の根本義として相互の國防が主として

二、諸國家が夫々の國家安全に必要とする軍備を整備する權限を尊重し之を享有するは言ふまでもなく又それ等軍備制定の根本義である

三、軍縮問題は常に一國單一國の觀念により律せらるることを必要とするも、海陸兵力共通の均衡を保つことは均等兵力主義に依るの外なく從つて帝國の得喪且つ又動的關係に基つて帝國政府は各會議の主張に依つても之が最大限を出來得る限り低く定めらるることを主張した

四、他面において海軍力の移動性並に海上戰爭の特質から論じても國防の均衡を論ずるには兵力量の均等なることを必要とする觀察兵力の根幹となるものに就て特に祭りである、然し專ら防禦に使用さるる艦種は各國夫々の特殊事情に應じ適當なる制限をなして然るべきである

五、故に均等兵力の主義が實現されれば現狀として不可侵不可侵の目的を達し得るが、現狀を維持的ならしめんが爲に日本代表は次段階的兵力の削減又は大幅減をなし兵力內容を專ら防禦的のものたらしめることを主張する蓋し之が實現せる暁國安全感は全般的に增大し軍備縮小の趨向を生ずる事に至るであらう

六、以上は帝國の基本主義の基礎觀であり公正妥當なる軍縮協定はこれを基礎としてのみ始めて達成し得るものであると確信する

七、共通最大限、この姿は各國がお互の限度まで建設すべしといふのではなく軍に警察の最低限を規定し軍備制限はその國防上必要な最小限度に定めしとする事と同時に軍備制定の根本義として相互の國防が主として

帝國の主張は必らず 將來各國も諒解せん

岡田首相が所信を三ケ條

【東京十六日發】軍縮會議は愈々十五日の第二委員會をもつて決裂し、帝國政府は九ケ國會議を脫退するの外なきに至つたが、岡田首相にこの邪惡に屈する意思は毫もなく帝國の主張は必ず將來各國の諒解を得て不幸決裂するの已むなきに至つたことは自分の深く遺憾とする所である、國家平和の增進並に軍縮の自的達成に貢獻

第一委員會後に コムミユニケ發表

【ロンドン十五日發電通】十五日の第一委員會議終了後發表されたコムミユニケ左の如し

日本代表部の要請に依り委員會議長の召集に從ひ十五日午後海軍軍縮數次通商大臣に關する日本案の討議を再開した、日本代表が日本案を一層明瞭ならしめんとする目的の下に說述を行つた後議長は各代表に對し順次に右案に對する彼等の充分且つ決定的なる意見の開陳を求めた而して

議長は 討議を要約し諸代表部の時間の大部分がこの日本案に對する注意深き考慮に當てられ會議內及び會議外を通じて周到なる檢討が行はれたことを述べた、然し議長は右案が何等の支持をも受けなかつた事を指摘した、更に議長はこの日本案は大體において最的制限の一環組のみを取扱つたものであり然も最的制限それ自身が會議の當面する諸問題の極めて限られたる

一部分 に過ぎざることを開陳した、斯くの如き事態の下において議長は最遲の方策は一日會合を閉じ次回會合において委員各の當面する他の重要なる事案に移るにあると思考した旨において委員會は散會せられ本曜日午後三時半より再開することになつた

四國會議開始 を公式に宣言

【ロンドン十五日發電通】軍縮事務局は十五日の委員會散會後左の如く公表した

軍縮委員會は十六日午後二時半より開開せらるべし

右は事實上の四ケ國會議の開始を公式に宣したものである

【ロンドン十五日發電通】イーデン外相の登場を機會として軍縮を國際化した左の如き非公式談話が成立したとアメリカ側で有力に傳へられてゐる

一、アメリカはイギリスが遠洋艦の保有量をロンドン條約規定の五千噸より七千噸に增加することの反對を撤回する

二、右の妥協條件としてイギリスはワシントン政府の既開發及び巡洋艦の代換建造に當り必要と認める最新式の砲數乃至備砲口徑に對し反對をしない

三、ワシントン條約、太平洋防備制限協約を理由としてイギリスは若干の防備を强化し既開發の軍事施設を廢止せんと計畫して居るがアメリカは既計畫に關する異議を與へない

英米兩國間の 提携濃厚化

米國側の情報

引準された十六噸の潛水艦がその先發隊として當港を出發した

無絃琴

★會議は決裂、永野全權が脫退したといふ第一報が發表（電波）となつて傳はつた時には十八日の午前二時頃であつた▲五日の第一委員會で、眞の軍縮實現を望つた日本案が英米佛などから受容できぬものとして四對一で退けられたのが、午後九時五十分で、ソレは當時刻にすると十六日の午前一時五十分であつた、從つて午前三時頃には「日本脫退」の至急報は東京を經て各社へ着くわけだ▲會議が妥協のコースをスラ〳〵と通つた爲めでもあらうが、ソレにしても地球圓周の三分の一以上の距離を隔てて、一時間くらゐの間に世界的大ニュースが入手できたといふ事は、新聞界の記錄的驚異として後に殘るべきものだらう。

○

倫敦では四大海軍國を相手に大一番の相撲を取つたのに、東京では大も喰はぬ政變三昧

○

議會が解散になつて都合のいい人と惡い人とがあるらしい、非常時局突破と時を同じくした總選擧には好景氣

○

帝國海軍の發展經過を語る展覽會は、海軍記念日の當日を以て終了する筈であつたが、觀覽者の增加に鑑み更に十日間延期することとなつた

○

「東京十六日發」軍縮會議は遂々十五日の第二委員會をもつて決裂し、帝國政府は九ケ國會議を脫退するの外なきに至つたが、岡田首相にこの邪惡に屈する意思は毫もなく帝國の主張は必ず將來各國の諒解を得て不幸決裂するの已むなきに至つたことは自分の深く遺憾とする所である、國家平和の增進並に軍縮の自的達成に貢獻するといふことは自分の自ら進んで

七人連作 ロンドン閣下 (5) (探檢の卷) 島田啓三畫

會議を脫退しても 軍備競爭の意思なし

依然世界の平和を熱望

永野全權が記者團に語る

【ロンドン十五日發電通】日本脫退後イギリス、アメリカ、フランス及びイタリー四國間に軍縮會議を開催しソヴエット聯邦ドイツを參加せしめんとするイギリス、アメリカの積極的動きが傳へられてゐる

ソ聯と獨に 參加を勸誘

【ロンドン十五日發電通】日本脫退後イギリス、アメリカ、フランス及びイタリー四國間に軍縮會議を開催し更にソヴエット聯邦ドイツを參加せしめんとするイギリス、アメリカの積極的動きが傳へられてゐる

參加の招請が發せられたかドイツ政府當局に對しては昨五日同國大使館附海軍武官ワツスネル大佐がイギリス外務省ラクレギー參事官を訪問した際ラクレギー參事官から同國非公式に參加勸誘の發された、獨その他の地中海諸國乃至バルチック諸國を招請すべきや否やは未定となつてゐる

英で臨時閣議

【ロンドン十五日發電通】英政府は十五日午前十一時より午後零時三十分まで首相官邸に臨時閣議を召集し國防問題及び對伊石油禁輸問題に關し檢討をなした

和蘭銀行利下げ

【アムステルダム十五日發通信】オランダ銀行は十五日公定割引歩合を五厘引下げ三分とする旨發表した

米日貿易小反撥

【ニューヨーク十五日發同盟】十五日の當地市場における米日爲替は三仙方小反撥して二十九弗十仙と引けた

人事

▲池田宇一氏（三井物產臺北支店長代理）十七日臺灣丸にて上京

▲新宮榮氏、▲木村敏氏、▲小野寺兵一氏（文藝講演の爲十六日來臺）

▲上田勝氏（三井物產高雄支店詰として十六日臺灣丸にて歸任）

▲松本俊氏（帝國地方會社）十六日來臺

結婚機構 (61)

上演 東上映

細田源吉作

大橋月皎畫

霜風 (五)

悌太郎は、全身で楠平へぶつかりたいくらゐ、異樣しながら、

「それでは、もしですね、あなた、とこへ今度の楠平さんが縁組みしやうとしてる上役の家から、誰かあなたに逢ひたいつて申込んで來たら逢つてやりますか？」

「なぜ？　悌ちやん、つまらないことしないで！　悌ちやんが先方へ出かけてつたつて、今更どうなるもんぢやないわ……それこそつまらない淺ましをうけるくらゐが關の山だわ」

「ぢや、もう一つ、僕が突込んで云つてもいいですか？……鄕子さんとして、至純な心で楠平を愛したんでしたら、このまま捨てられつきりに捨てられてることが、果して正しいんでせうか……？　どうも、僕、そこのとこで、鄕子さんも古い女と同樣だな、と思ふんだけど」

悌太郎は、全身で楠平へぶつかりたいくらゐ、異樣しながら、

「それでは、もしですね、あなた、とこへ今度の楠平さんが縁組みしやうとしてる上役の家から、誰かあなたに逢ひたいつて申込んで來たら逢つてやりますか？」

「なぜ？　悌ちやん、つまらないことしないで！　悌ちやんが先方へ出かけてつたつて、今更どうなるもんぢやないわ……それこそつまらない淺ましをうけるくらゐが關の山だわ」

「ぢや、もう一つ、僕が突込んで云つてもいいですか？……鄕子さんとして、至純な心で楠平を愛したんでしたら、このまま捨てられつきりに捨てられてることが、果して正しいんでせうか……？　どうも、僕、そこのとこで、鄕子さんも古い女と同樣だな、と思ふんだけど」

「古い女よ！　私、どう考へたつてちつとも新しくないのよ！　楠平つて人の性格が、よくのみこめて來たんで、この上、私がジタバタしたつて、なんの效果もありやしないと思ふの」

「それが、僕としては、もとかしいんだな！」

と、悌太郎は眼を一杯に瞠かしながら。

「そんなこと、うそだ！　僕は、あなたがミス〳〵捨てられていつて平氣でゐないんですか？……僕、鄕子さんは、そんな弱い性格の人だと信じたかつたがなあ……。それに、たにも、あなたが他人から逆にかくれることも、うつともたいぢやないですか？　堂々と楠平と上役の家の間へ入り込んで、あなたの幸福を立派につくることが、何故うつくしく、正しいことだと思ふんだなあ……」

「悌ちやん、まあ、あなたに生れたゆゑの、純情的な性格には、頭がつて來て、あゝくれ自分、もう見ひながら、あの楠平……」

と、悌太郎は眼を一杯に瞠かしながら。

「それが、僕としては、もとかしいんだな！」

「それが、僕としては、もとかしいんだな！」

と、悌太郎は眼を一杯に瞠かしながら。

「そんなこと、うそだ！　僕は、あなたがミス〳〵捨てられていつて平氣でゐないんですか？……僕、鄕子さんは、そんな弱い性格の人だと信じたかつたがなあ……。それに、たにも、あなたが他人から逆にかくれることも、うつともたいぢやないですか？　堂々と楠平と上役の家の間へ入り込んで、あなたの幸福を立派につくることが、何故うつくしく、正しいことだと思ふんだなあ……」

「悌ちやん、まあ、あなたに生れたゆゑの、純情的な性格には、頭がつて來て、あゝくれ自分、もう見ひながら、あの楠平……」

「古い女よ！　私、どう考へたつてちつとも新しくないのよ！　楠平つて人の性格が、よくのみこめて來たんで、この上、私がジタバタしたつて、なんの效果もありやしないと思ふの」

「それが、僕としては、もとかしいんだな！」

と、悌太郎は眼を一杯に瞠かしながら。

「そんなこと、うそだ！　僕は、あなたがミス〳〵捨てられていつて平氣でゐないんですか？……僕、鄕子さんは、そんな弱い性格の人だと信じたかつたがなあ……。それに、たにも、あなたが他人から逆にかくれることも、うつともたいぢやないですか？　堂々と楠平と上役の家の間へ入り込んで、あなたの幸福を立派につくることが、何故うつくしく、正しいことだと思ふんだなあ……」

「悌ちやん、まあ、あなたに生れたゆゑの、純情的な性格には、頭がつて來て、あゝくれ自分、もう見ひながら、あの楠平……」

結婚機構 (61)

上演 東上映

細田源吉作

大橋月皎畫

霜風 (五)

悌太郎は、全身で楠平へぶつかりたいくらゐ、異樣しながら、

「それでは、もしですね、あなた、とこへ今度の楠平さんが縁組みしやうとしてる上役の家から、誰かあなたに逢ひたいつて申込んで來たら逢つてやりますか？」

「なぜ？　悌ちやん、つまらないことしないで！　悌ちやんが先方へ出かけてつたつて、今更どうなるもんぢやないわ……それこそつまらない淺ましをうけるくらゐが關の山だわ」

「ぢや、もう一つ、僕が突込んで云つてもいいですか？……鄕子さんとして、至純な心で楠平を愛したんでしたら、このまま捨てられつきりに捨てられてることが、果して正しいんでせうか……？　どうも、僕、そこのとこで、鄕子さんも古い女と同樣だな、と思ふんだけど」

悌太郎は、全身で楠平へぶつかりたいくらゐ、異樣しながら、

「それでは、もしですね、あなた、とこへ今度の楠平さんが縁組みしやうとしてる上役の家から、誰かあなたに逢ひたいつて申込んで來たら逢つてやりますか？」

「なぜ？　悌ちやん、つまらないことしないで！　悌ちやんが先方へ出かけてつたつて、今更どうなるもんぢやないわ……それこそつまらない淺ましをうけるくらゐが關の山だわ」

「ぢや、もう一つ、僕が突込んで云つてもいいですか？……鄕子さんとして、至純な心で楠平を愛したんでしたら、このまま捨てられつきりに捨てられてることが、果して正しいんでせうか……？　どうも、僕、そこのとこで、鄕子さんも古い女と同樣だな、と思ふんだけど」

「古い女よ！　私、どう考へたつてちつとも新しくないのよ！　楠平つて人の性格が、よくのみこめて來たんで、この上、私がジタバタしたつて、なんの效果もありやしないと思ふの」

「それが、僕としては、もとかしいんだな！」

と、悌太郎は眼を一杯に瞠かしながら。

「そんなこと、うそだ！　僕は、あなたがミス〳〵捨てられていつて平氣でゐないんですか？……僕、鄕子さんは、そんな弱い性格の人だと信じたかつたがなあ……。それに、たにも、あなたが他人から逆にかくれることも、うつともたいぢやないですか？　堂々と楠平と上役の家の間へ入り込んで、あなたの幸福を立派につくることが、何故うつくしく、正しいことだと思ふんだなあ……」

「悌ちやん、まあ、あなたに生れたゆゑの、純情的な性格には、頭がつて來て、あゝくれ自分、もう見ひながら、あの楠平……」

ムクスーア

法製 專賣特許

國產愛用 颯爽たり

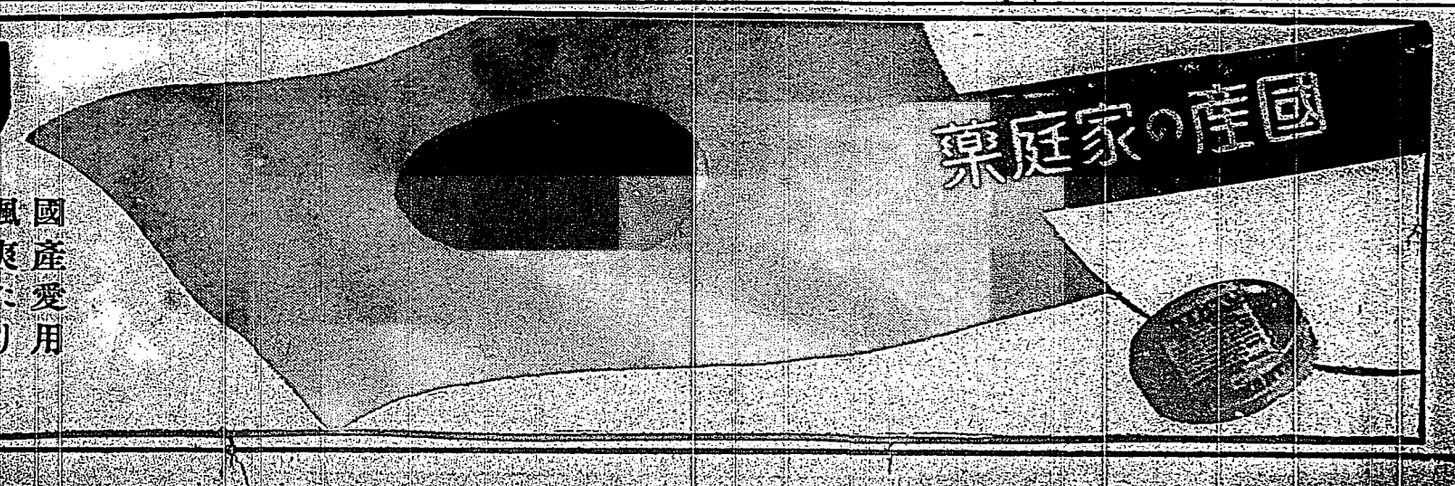
一九二六年 我が日の丸は 世界に輝く 國產アースタムの効力は 天下に響く

生氣溢るアースタムの愛用で冬の苦痛も斷然解消し健康美に輝く

アースタムは患部に輕く塗擦すると皮膚に浸透して發育鎭痛の作用を表し細胞の侵蝕を阻止ならしめ荒れを防いで地肌を滑らかに艶玉の如く美化し化粧下に最適にして、ひゞ、あかぎれ、しもやけ其の他外傷、神經痛、リウマチ等諸疾患の緩痛消炎の目的を達します。

全國各店・百貨店 藥品部に有り

價 三〇錢 六〇錢 一圓



軍縮會議脫退のけふ
「出雲」基隆に入港
全市は各戸に國旗を掲げて
心からの歡迎を表明

【基隆電話】第三艦隊旗艦出雲に戰勝の凱旋を飾り十六日午前七時威風堂々の雄姿を現はし大正埠頭に繫留した、この日基隆の全國に先だち全市國旗を掲げ海の勇士を迎へ六年ぶりの歡迎を表明した、午前九時一切の作業が終るのを待つて基北より前田艦隊少佐、齋藤石井地方課長、藤原市尹、林參兵課長、川副警備課長、磯子築港所長、高橋陸上、高橋水上兩署長、林郷軍分會長等在留關係官が同艦に及川司令長官を訪ひ正式の挨拶を行つたが一同の退艦後、及川中將は觀光のため陸上に上陸、警察部、市役所に官房をなし、自動車で基北に向つたが途中は十六、十七の兩日學校上陸で第一線に在る即九時過ぎ基北に正式參拜の爲め基北に赴いた、出迎は二十日午後四時の發定である

"歐洲たけの取きめも
多少效果はあらう"
及川第三艦隊司令長官談

【基隆電話】及川司令長官は語る

『今度には何度も來たことがある昭和八年第一艦隊では第一航空戰隊司令官として來てゐる、軍縮會議の決裂、脫退又已むを得ないことだ、日本の脫退後四ケ國で會議を續行するのは實質的の效果がないやうに云ふが歐洲を當面にして歐洲諸國だけが取決めをするのだつたら多少效果のないこともあるまい、僕は新任間もないので支那當局の人に新任長官の視察と挨拶廻りが目的

岩村參謀長談

『何時でも何うなるかはわからぬが、あんなものは一つの勢だからね、北支問題に就ては支那全體が腹心を持つてゐるが、中央では今何うの方のと論いてはゐない、軍も勿論でも嚴重取締つてゐる程度である、北支に於ける一つの問題と云ふやうな機微な點に就ては僕等は知らない、滿洲の郷酉班退軍件はほゞ片付いてゐるよ、二月十八日には平田旅團長官が上海に來

兩神社參拜の後
總督を訪問
及川司令官幕僚を隨へ

第三艦隊司令長官及川中將、岩村參謀長、森山、米澤、長岡各參謀、出越出雲艦長等二行十名は十六日午前十一時齋藤總督、鄭肇基兩神社參拜後中川總督を公室に訪問して來意の挨拶をなし更に軍司令部に横山軍司令官を訪問した

午後は總督ホテルに於て中川總督、横山軍司令官の答訪を受けた後原警務局、博物館、中研を視察して後、六時から總督主催の官邸における招宴に臨む豫定である

時局大會の
陸軍側講演者
各地特派の顔ぶれ決す

十七日全島一齊に擧行される時局大會に左記北の陸流側から特派される講演者左の通り決定した

新竹市　帝大配屬將校
彰化市　歩一　五十君少佐
嘉中市　〃　佐藤　大佐
警察配屬將校　向立　中佐
竹東街　〃　佐藤　大佐

第三艦隊軍樂隊員が演奏
明夜新公園で

十七日總督で擧行せられる對時局軍官民大會の行事の一たる第三艦隊軍樂隊員二十四名の演奏會は同日午後六時半から新公園音樂堂で第三艦隊軍樂隊長岸本勇之助氏指揮のもとに開催されるが演奏曲目は左の通りである

演奏曲目
一、行進曲、觀艦式、佐藤作曲
二、序曲、輕騎兵、ズッペ作曲
三、圓舞曲、學生、ワルドトイフェル作曲
四、軍歌二題イ、星條旗の歌、東京音樂學校作曲（ロ）海の榮、海軍軍樂隊作曲五、歌劇アウストの七場舞ダンス作曲（イ）スペイン人の舞踊（ロ）アレグレ

心をひく先人達の
壁に記した墨跡
ソバや野菜料理で酒宴を開く

福建省黃蘗山を探險（D）

黃檗山萬福寺に住職たること二十年餘にして後水尾上皇より親しく御引見の上御々卸下問を賜ひ德行の聞ゆる隱元禪師に參禪、

×

この黃檗山萬福寺には日本各地の信徒より寄贈された墨跡が澤山あるが、その中でも最も有名なものは、後水尾上皇の「大光普照國師」の御諡號を賜はつた隱元禪師に對する「佛法僧寶國師」の御諡號を賜はつた時の勅書であつて、その勅書には八十二歳の長命であつた、隱元禪師に天下の禪宗の源流黃檗山から來た隱元禪師が日本に渡つて開いた日本各地の寺院の住職となり長崎に於ける唐僧として大に佛教宣傳に努めた、

×

この黃檗山萬福寺には、[illegible]

明治末年頃[illegible]

訪れた日本人は

[illegible]

隱元禪師[illegible]

[illegible]

[illegible]

紙衣祖師（10）

吉川英治作
山村耕花畫

法敵篇

春雷（五）

「いや、待ちたまへ」

二人が、図を損じた。

二人は、おおしてやがぬおすがたしてるが、何かも、侍従しるこにちがひない。生かか、吾れまわって、殿に血をのぼせたりなかには、出て、上人に御心配加ゐるようなことになる」

「では、獄山の弟子僧に言々は、殿自ら待ってるのか」

「うんもなさま」

若い弟子達は、何かささやき合ったが、門の外へ出て行った。そして殿の戒にかまったのは、この変な空気に上人も閉じさせて、ただ一人に近頃健のすぐれない法敵に師を悩ましめまいという師弟の思ひやりからであった。

「どうする？」

そこで再び即の問題を殿堂に上せて、二人は、もう悩むところのない顔で云い合った。

「いったい、獄山の凡衆共は、何を肉にして、この吉水をそんなに敵視しておるのか」

「知れてるちやないか、嫉妬」

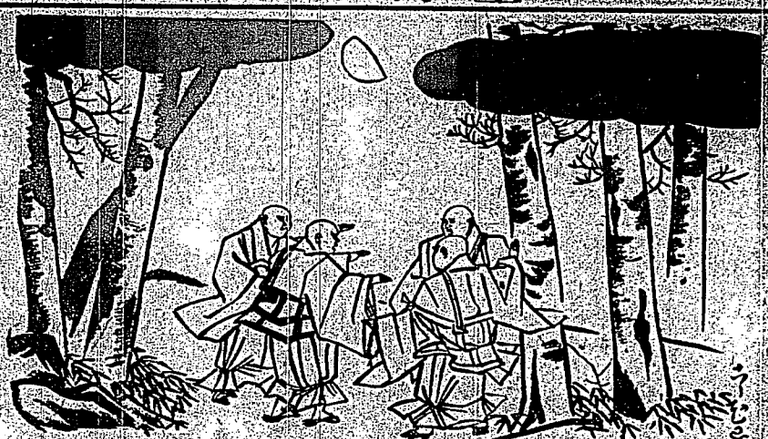
「人を救はうといふ者が！」

「千年の僧綱と、あの巨きな権力をもつ獄山が。――考へられないことに」

「これは、人間の感情といふものを外に置いての事で、獄山の衆にも感情はあるから、近年の吉水と、自分たちの殿堂してる獄山とどっちが此世に多くの人を救ってるかの数べてみれば、自ら思へさせずにはをられまい」

「単純に」

「もちろん、顕教の殿に入ってる僧侶などは、単純でなければ、あもし思られるものもない。――ここは、ただ、僧衆の無智と無知に対して、真実をうかがう者が出てくることに、それだけでもすでに罪悪なのだからなア」



「うーむ」

眼がみな鋭き合ふ。

「中でも、安居院の法印聖覚どの、西塔の名僧といはれた御坊の幸長、叡阿、顕空、叡へきれない人人が、獄山から吉水へ移って来てゐる」

「うム」

「なるほど、さう殺へてみると、獄山が、嫉妬するのも無理ではないの」

前蹴門月輪公が、まづ第一に指らぬんな手厳しい叱りをうけた二殿院の悪玉どのもその一人だ。弁長、叡阿、顕空、叡へきれない人人が、獄山から吉水へ移って来てゐる」

次に、大炊御門左大臣・花山院権中将・野々宮左大臣、兵部卿基親など、殿上の貴族者だけをかぞへても、十指に余る。

武門の人々では。

熊谷直実の坐生をはじめ、甘糟太郎忠綱、宇都宮頼綱、上野の御家人小四郎義時、武蔵の住人猪俣小平六則綱、藤田成家、津戸三郎為守。

又、殊に女性の歴徒といふと、今までの説明の顕興は、とかく女人を悪感視してゐたが、必ずしもそれには、女人のためにも、差別なく救ひのとびらかれたものとして殿食の将軍家頼朝の母の尼子が、遊に、信仰をよせてゐる他、越前権守・野々宮左大臣、兵部卿基親の娘・春宮の乳母・三位の局、信実の伯母人、三位の小川の侍従の姫、花山院殿后の侍女三河の局、伊豆の走り湯の妙寛尼など、ここにも殿堂には嫉められない特色があった。

映畫物語　大菩薩峠（二）

甲源一刀流の巻・鈴鹿山の巻

大河内傳次郎の「机龍之助」

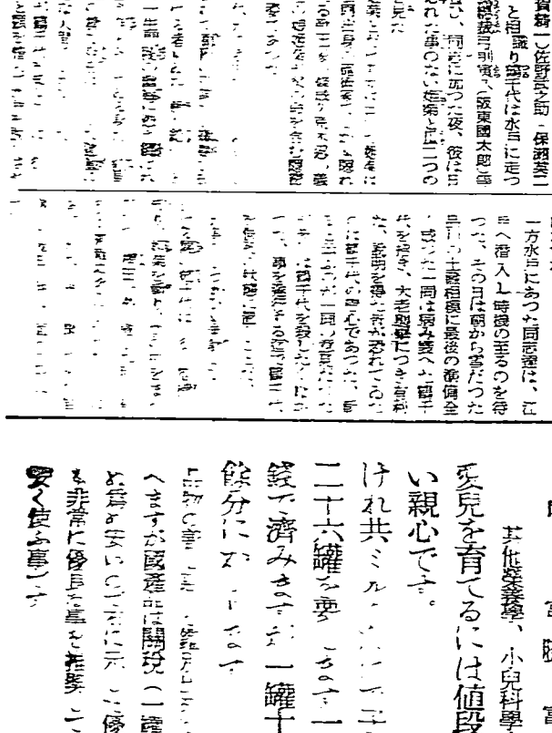
龍正に招かれた事を思って居るからである。

兵八との縁から兵馬は龍之助の父入り、これも片柳兵馬と名乗る宇津木兵馬と試合をする。兵馬はこれが龍之助であるとは知る由もないが後で畠田虎之助の暗示によってハッとする

悲嘆坂のお絹の家に蹇はれてゐるお松は、別人のやうに美しくなってゐる。今日しも部屋で花を活けてゐると突然の夕立、これが縁となって兵馬と知り合ひ互ひに憎から丸惚ひを掲く兵馬はその時、新徴組…後の新選組の近藤勇、土方歳三と出合ふお松は、お絹に神尾主膳（お絹は先代の神尾主膳の愛妾である）―と言ふ新徴組入隊をすすめられるが兄の仇を討ってからと云へば、近藤土方も次第によっては一臂の力を貸さうと云ふ神尾主膳の邸に入ったお松は、

津木兵馬と試合をする、兵馬はこれが龍之助であるとは知る由もないが後で畠田虎之助の暗示によってハッとする

悲嘆坂のお絹の家に蹇はれてゐるお松は、別人のやうに美しくなってゐる。今日しも部屋で花を活けてゐると突然の夕立、これが縁となって兵馬と知り合ひ互ひに憎から丸惚ひを掲く兵馬はその時、新徴組…後の新選組の近藤勇、土方歳三と出合ふお松は、お絹に神尾主膳（お絹は先代の神尾主膳の愛妾である）―と言ふ新徴組入隊をすすめられるが兄の仇を討ってからと云へば、近藤土方も次第によっては一臂の力を貸さうと云ふ神尾主膳の邸に入ったお松は、



阪妻の力作　新納鶴千代

十八日より芳乃館上映

▲この映畫の原作たる舘訥次郎正の「侍ニッポン」は、五年前大河内傳次郎主演伊藤大輔の監督で製作されたものだが「新納鶴千代」はこのトーキー化であり、しかも阪東妻三郎の初のトーキーとして阪妻の将来の運命を決定しようと言ふ意味で重大な映畫である

▲また華やかな過去を持つ監督伊藤大輔にしても、この脚本にかんとして非常な感慨込を持って向ったものだけに駄作か凡作に堕落かが、この一作によって定まるものであった

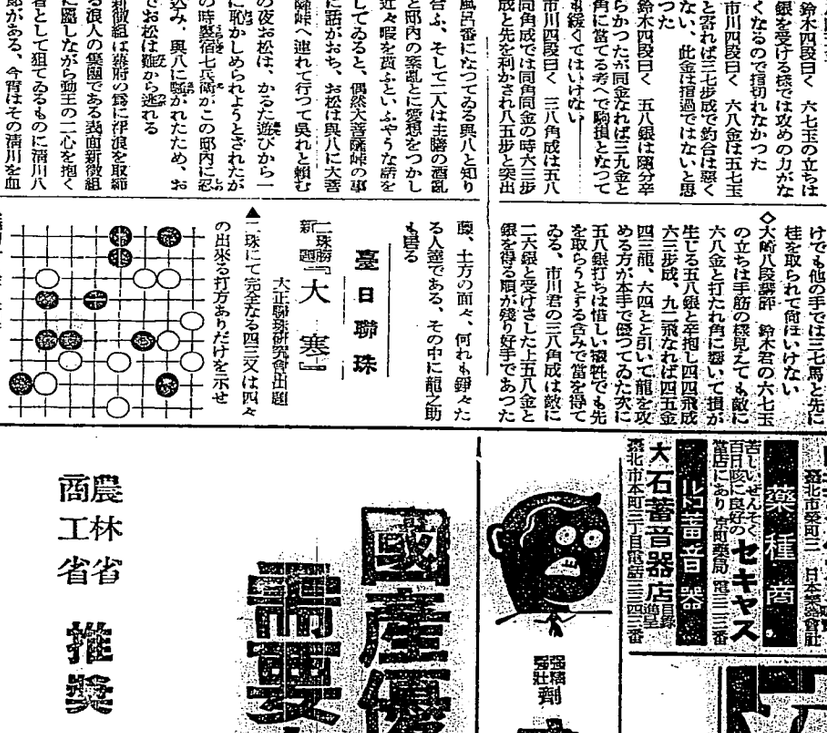
▲その結果は如何であったかさすが苦労人伊藤大輔である。監督の手法を即作にはガラリと変へ、緊迫感のする正攻法で真正に押しきった。最後のクライマックスに達する殺陣の如きは、背景と心理二分に駆使した、トーキー特有の効果を発揮して一段の凄味を加へてゐる

▲特に第一映畫、松竹蒲田、新興等の松竹ファンクとり、山田五十鈴を始めとし、映畫界大方、聲優、松本泰輔等が聲優出演、ニコニコ聲優等よりも聲優十三名である。

▲一方、阪妻も、断然男前な演技を示してゐる。むしろ武士と息はれるばかりの熱演である。その科白聲調はまことに堂々として、やはり時代劇の王者と名聲を十二分に発揮した。トーキー特有として敵役のある大河内や聲優等よりも聲優十三名である。

▲特に第一映畫、松竹蒲田、新興等の松竹ファンクとり、山田五十鈴を始めとし、映畫界大方、聲優、松本泰輔等が聲優出演、ニコニコ聲優等よりも聲優十三名である。

▲一方、阪妻も、断然男前な演技を示してゐる。むしろ武士と息はれるばかりの熱演である。その科白聲調はまことに堂々として、やはり時代劇の王者と名聲を十二分に発揮した。トーキー特有として敵役のある大河内や聲優等よりも聲優十三名である。



名家敗退將棋（九）

（鈴木氏一回勝二回目）

平手先　四段△市川一郎
四段▲鈴木禎一

（圖は五飛八四の局面）

△市川氏（駒得）歩歩金　歩歩金

▲鈴木氏（駒得）歩歩歩歩歩金銀銀金

▲六七玉△六八金▲七六玉△四四飛成▲三六角△四九角▲五八銀△三八角成▲二六銀△五八金▲四五金

▲鈴木四段日く　六七玉の立ちは銀を受ける様では攻めの力がなくなるので指切れなかった

△市川四段日く　六八金は五七玉と寄れば三七歩成で約合は悪くない、此金は指過ではないと思つた

▲鈴木四段日く　五八銀は陳分辛からかったが同金なれば三九金と角に筈てる考へで駒損となって

△市川四段日く　三八角成は五八同角成では同角同金の時六三歩成と先を利かされ八五歩と突出

▲鈴木四段日く　二六銀は銀を受けても他の手では三七馬と先に桂を取られて苦はいけない

◇大崎八段棋評　鈴木君の六七玉の立ちは手筋の様見えても敵に八金と打たれ角に遮いて損が生じる五八銀と辛抱し四四飛成六三歩成、九一飛なれば四五金四三龍、六四と引いて龍を攻める方が本手で優つてゐた次に五八銀打ちは惜しい様牲でも先を取らうとする含みで當を得てゐる、市川君の三八角成は敵に二六銀と受けさした上五八金と銀を得る順が残り好手であった

さ一歩を與へてはいけないと思ひ七桂を利かすが手堅い様です

▲鈴木四段日く　二六銀は銀を受けても他の手では三七馬と先に桂を取られて苦はいけない

◇大崎八段棋評　鈴木君の六七玉の立ちは手筋の様見えても敵に八金と打たれ角に遮いて損が生じる五八銀と辛抱し四四飛成六三歩成、九一飛なれば四五金四三龍、六四と引いて龍を攻める方が本手で優つてゐた次に五八銀打ちは惜しい様牲でも先を取らうとする含みで當を得てゐる、市川君の三八角成は敵に二六銀と受けさした上五八金と銀を得る順が残り好手であった

△細切一月末日長期

△懸賞者に景賞

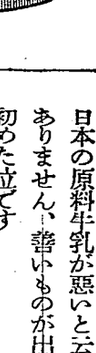
△宛名記載明瞭簡潔

臺日聯珠

新題「大寒」

大正聯珠研究會出題

▲一珠にて完全なる四三又は四々の出来る打方ありだけを示せ



臺日藥局

臺灣博覽會出品
特許弁理士　岸喜鑑　事務所
臺北市榮町一ノ番地貳號
電話五貳貳番

督府圖書館再擴充
要求豫算一百萬圓
全島圖書館亦謀充實

據一總督府圖書館，乃前之帝室圖書館，建物歷年既久，階上藏書約十五六萬部，已無餘地，可以擴充。山中圖書館主島文化向上，數年來即計畫新築，圖書四萬餘冊，第以各種新規事業出時代，豫算皆被財務局削除，今回又要求一百萬圓。然查秋已以工費五萬圓，新建製本室，倉庫，休憩所，茲已完竣。今者又欲以五萬圓，作製圖書目錄，（特別任官二）人，下圖書館利用者，多是內地人，蓋地理的使然。本島人二邊，希於稻江方面，創設分庫，閱覽日人館觀覽者，平均六七百人，時常滿員，須在館外貯立待有空位。方得入館。全島市街庄公私立圖書館，約八十處。然內容極貧弱，社會教化方面，宜更擴充，昨年臺博期間中，十一月會開全島圖書館長會議，深川文教局長，徵求圖書館改善擴充案，與見各館長具體的答申。今後當漸次擴充云。

臺中州官民
國防祈願
大會行事

海軍々縮會議，預料必至決裂，官民由臺中州國防義會，在鄉軍人會，臺中州聯合分會，臺中分會，臺中市役所等，主倡祈願祭。及軍官民大會。並其他行事。訂本十七日舉行順序如左。

祈願祭午前八時。在臺中刑務所。日下知事。錦內務。細井警務。兩部長。藤田市尹。五野助役。諸氏參拜。

大會午後一時半開始行進。至臺中神社參拜。然後繞行市內。

臺中市本島人會，為宣揚國威並向帝國軍樞全擴。於臺中公會堂。開軍官民大會。其式序。一、開會辭。（高橋國防義會理事）二、遙拜皇居。四、日下國防義會長式辭。五、宣言決議。（三）萬歲（分會長）六、閉會辭。（廣田市尹）七、三唱帝國萬歲。（清水第二小學校八年以上兒童。）

臺北市豫算查定
各課強硬要求復活
然新規事業多被削減

臺北市明年度各課要求豫算。為六百八十四萬圓。業自客年末。由庶務課查定中。至去十四日終了。十五日將該查定案。公表。各課長。而自十五日起。至二十四日之間。總開豫算礎商會。據聞庶務課之查定方針。若要求課自身不能捻出新財源時。則其新規事業百八十萬圓。而為三十萬圓內外云。

彰郡防瘧
審查成績

彰化郡管下防瘧作業。前後費四千圓。由各地派出所警官打堆。實住民理解得良好佳績。月十五日。有安逢衛生課長。偕係員來郡。由伊澤課長木下行政主任。重田警部補等導往番。結局等級如左。

一等社口。二等秀水。三等三家春。四等洪堀寮。五等新庄子。

戰隊入港
水兵上陸
受市民恭待

細倉司令官麾下第五水雷戰隊。去十五日午前八時十五分。以旗艦夕張為導第十二。十六兩艦逐隊所屬各艦。威風堂々。陸續入高雄港。是日森山水池大軍艦族。午前八時。燃放煙火二發。戰隊入港後。部下內務部。警察部。官廳。各官舍。相與交歡。而司令官。水於建朝十時半。偕諸將佐上陸。造訪州市兩助役答禮。是日下午。千九十八名之乘組員。分批上陸。二々伍々。潤步市中。在各映畫館及西子灣溫浴場等。休憩所。受市民熱誠歡待云。

開山神社
擴張神苑

臺南開山神社。欲擴張神苑。自前由各有志。議募一般。同社氏子崇敬者。及有志。以充工事諸費。去十四日諸軍要人。集於該社。社務所。就設奉賛會。及捐款諸事。再行磋商。就。黃欣氏倡議減少捐款為五萬圓。較為容易舉措。而該社祭典。轉瞬將屆。為商榷諸事。定十七日下午二時。仍在該社內。開信徒總代會。協議事項為奉賛會設置事。豫算案。催物選定。奉賛會委員增減選定。區長竝各代表及各係長。磯南會長。倡開。町紳飾。參拜通知等云。

沙鹿信組
組合長辭職
投票選舉

大甲郡沙鹿庄沙鹿信用販賣購買利用組合。去十五日午前九時。在公會堂。開第三回總代會。監督官向七。數年來即計畫新築。茲以各種新規事業出時代。豫算皆被財務局削除。今回又要求一百萬圓。然查秋已以工費五萬圓。新建製本室。倉庫。休憩所。茲已完竣。今者又欲以五萬圓。作製圖書目錄。（特別任官二）人。下圖書館利用者。多是內地人。蓋地理的使然。本島人二邊。希於稻江方面。創設分庫。閱覽日人館觀覽者。平均六七百人。時常滿員。須在館外貯立待有空位。方得入館。全島市街庄公私立圖書館。約八十處。然內容極貧弱。